聖徒の道　1970年2月20日発行（毎月1回20日発行）第14巻 第2号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1970 2

デビド O. マッケイ大管長 ● 1873 — 1970

心の糧

副管長　ソープ　B. アイザクソン

故ジョセフ　F. スミス大管長は，断食の律法と正直な断食献金を納めることに関して，次のように述べた。「断食日に，自分と家族の消費する食物（またはそれに相当する物）を，貧しい人々の祝福のために監督に納めるのは，すべての末日聖徒の義務である。食物の代りにそれと等しい価のもの，またはお金持ちの人なら，充分な献金を貧しい人々のために取りのけて捧げるのである。」（福音の教義　p. 243）

断食の律法に忠実に従い，その中の戒めである祈りをなし，正直な断食献金を納めるならば，末日聖徒は物心両面にわたり，さらに豊かに祝福されるであろう。そして，主が命じたもうたごとく，すべての貧しい人々に捧げる教会の基金は豊かになるであろう。主が断食の律法に完全に従われたように，我々も心から断食と祈りをなし，正直な断食献金を払おうではないか。その時，神は我々を祝福したもうのである。主は自らその道を我々に示したもうた。

——もく　じ——

予言者のことば

実践のキリスト教……大管長　デビド　O. マッケイ……31

世の秩序……G. ホーマー　ダーラム博士……33

あなたの価値……エルウイン　C. ニールセン……35

本当にいた大白神……マーク　E. ピーターセン……38

信じようとする望み……ケネス　R. ハーディ……44

人生の指示……リチャード　L. エバンズ……45

管理監督のページ

家　　族……ジョン　H. バンデンバーグ……46

目標，理解，方法……ジーン　ラーセン……48

愛の奇蹟……ウイリス　S. ピーターソン……50

勉学心の涵養……リン　スタダード……51

私は眠っていました……編集員　アルバート　L. ゾベル Jr.……54

伝道部長メッセージ……55

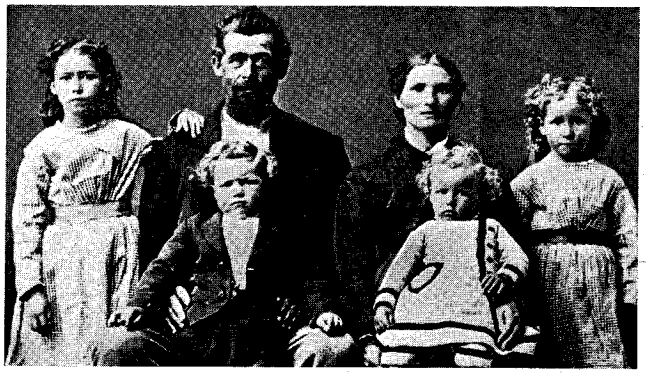
ローカル　ニュース……56

口論と家庭の幸福……リチャード　L. エバンズ……裏表紙

子供のページ

星をみつめる少年……ゲール　テッパーマン　バークレイ……3

あしの朝食……ジョアンナ　C. シラー……6



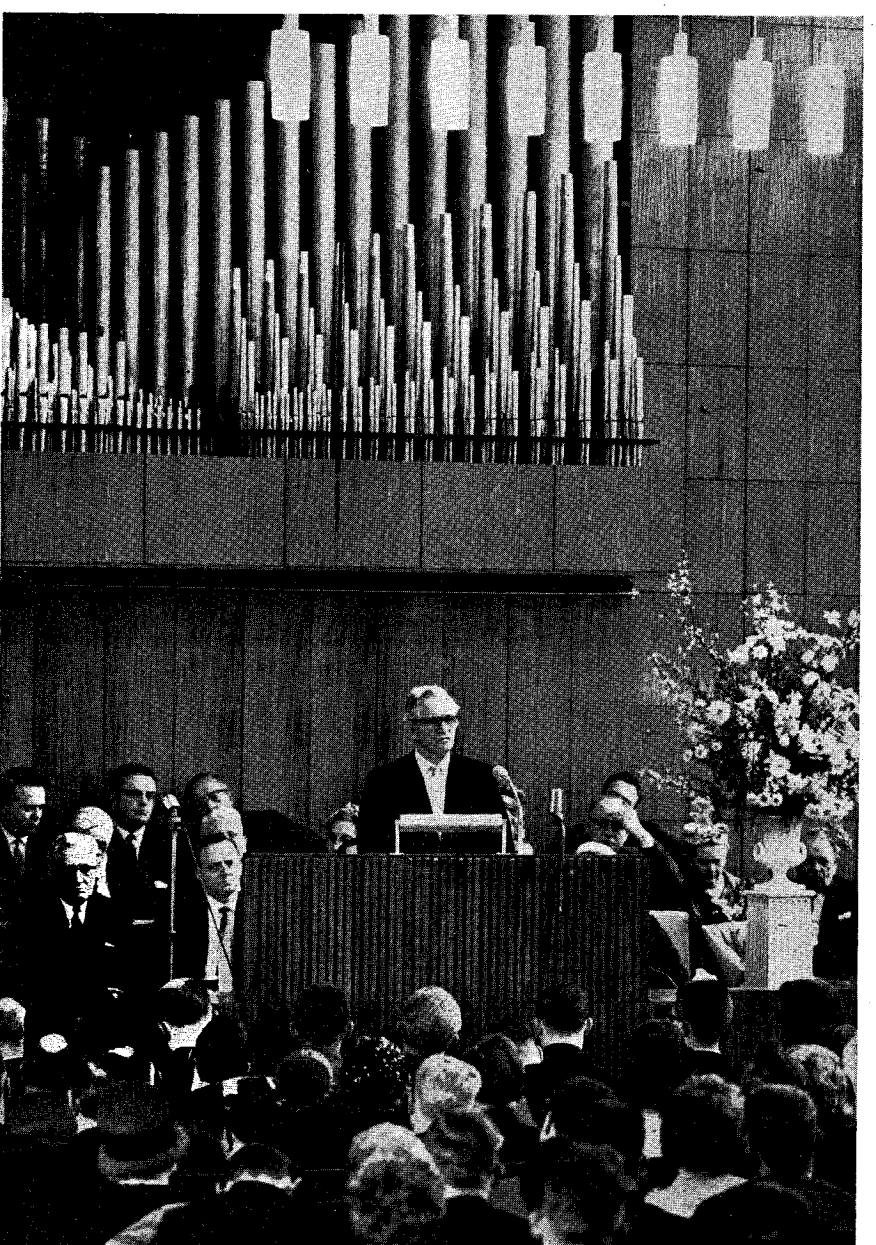
この家族の写真は，デビド　O．マッケイの最も古い写真である。デビドは父のひざに座っている。（上）
1921年十二使徒評議員のデビド　O．マッケイとヒュー　J．キャノン長老は全世界にある教会の伝道部を訪問した。教会幹部がこのような旅行をしたのははじめてのことであった。（下）

マッケイ大管長，ヒュー　B．ブラウン，ジョセフ　フィールディング　スミス副管長は，ソルトレークタバナクルにおける多くの総大会を管理した。

大管長 デビド O. マッケイ

教会出版局長

ヘンリー A. スミス



末日聖徒イエス・キリスト教会の予言者，聖見者，啓示を受くる者として，人々から愛されたデビド O. マッケイ大管長は，1970年1月18日ユタ州ソルトレーク市の自宅で逝去した。96年の生涯を終えた予言者の葬儀は1月22日ソルトレークのタバナクルで挙行された。

デビド・オーマン・マッケイは教会の第九代大管長として1951年4月9日ソルトレークタバナクルで開かれた厳粛な集会において支持された。時に77歳であった。

予言者，聖見者，啓示を受くる者の死去により，およそ20年間にわたり続いた地上における神の王国の進歩の行軍の一つが，他に類を見ない時代として終止符を打った。

今日，三百万教会員の半数以上が，マッケイ大管長が指揮するモルモンの行軍に加わったのである。彼が大管長会に在任期間中，教会は歴史を通じて類を見ない驚異的な進歩と発展を遂げた。

マッケイ大管長は，「聖霊と共にいることができるようにベストを尽す」との誓いのもとに教会の指導者という責任を引き受けた。霊感あふるる指導，彼に率いられた大管長会の業績は，マッケイ大管長が聖霊と共にあったことの証である。それはまさしく「黄金時代」であった。本当の意味で，教会が国際的視野に立った時代である。

1952年の夏，マッケイ大管長が聖任後初めて欧州を訪れ

1961年2月，マッケイ大管長は，英国初の教会堂，ハイドパーク教会堂を献堂した。（左）

た時，彼は「アメリカの教会とヨーロッパの教会員との接近」を確信した。この訪問中，スイス神殿用地を選び，現在建造なったロンドン神殿用地の購入を考えたのだった。

これがマッケイ大管長の考え方である。すなわち，世界の国々に住む末日聖徒が，もし神殿の霊にかかわる大きな祝福を受けることができるとすれば，聖徒は祖国にとどまり，教会を建てるであろうと。彼の大管長会在任期間に，5つの神殿を奉献し，そのうち3つはアメリカ以外の国々，すなわちスイス，イギリス，ニュージーランドであったという事実はこの点において彼がいかに努力したかの証拠となろう。

さらに，「国際的視野に立った方針」という彼の言葉の証ともなるべき事柄があげられる。すなわち，大管長会在任期間中に，イギリス，ヨーロッパ，南アメリカ，さらに太平洋諸島において最初のステーキ部が組織されたのである。これらの最初は，1961年に組織されたマンチェスターステーキ部であった。

デビド　O．マッケイは劇的な情況のもとに教会の大管長となった。第121回年次総大会は4月の6，7，8日，金，土，日曜日に予定され，数週間前より計画が練られていた。大会の開かれる2日前，すなわち1951年4月4日，ジョージアルバート・スミス大管長は誕生日にあたる日にソルトレーク市の自宅で死去されたのである。その時，ベッドの傍にはスミス大管長の家族と，大管長の後継者が見守っていた。大管長会の責任が重く彼の肩にのしかかってきたのであった。

当時，マッケイ大管長は，副管長と十二使徒評議員会会長の職にあった。スミス大管長の死去する前日，彼はベッドの傍に呼ばれた。スミス大管長はもう意識不明だったが，マッケイ大管長が指導者の責任を与えられることを完全に知っていた。それは，すばらしい経験であった。

2日後，総大会は大管長空席のまま開かれた。管理権は十二使徒評議員会にあり，デビド　O．マッケイはその会長であった。出席した人々やラジオ，テレビで大会の模様を見聞きした多くの人々の記憶によると，十二使徒評議員会管理のもとに総大会が開かれたのはこれがはじめてであった。

土曜日の大会はスミス大管長葬儀のため中止となり，マッケイ会長が葬式を管理した。そして，大会は月曜日にも開かれ，午前の大会でマッケイ大管長が支持され，同時に大管長会が組織された。副管長は，スティーヴン　L．リチャーズとJ．ルーベン・クラーク，Jr.であった。

デビド　O．マッケイ大管長が在任した20年近くの間の全

マッケイ大管長は歴代大管長の中，最も旅をした大管長である。これはニュージーランドの人々に語っている写真である。（上）
マッケイ大管長は多くの政治指導者と語り合った。これは数年前ニュージーランドのウォルター　ナッシュ首相と会見した時の写真である。（下）

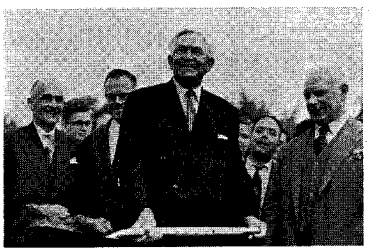
会員数，ステーキ部，ワード部数，伝道部教に教会の成長が顕著に示されている。1951年マッケイ大管長が就任した時教会員の数は約115万人であったのに対し今日では300万人近くに急増している。1951年ステーキ部数は180であったのに対し，現在は500である。当時ワード部と支部の合計は1,541であったのに対し，現在では4,200を越える。1951年伝道部数は43であったのに対し，現在は80を越えている。

この成長は，マッケイ大管長の霊感に満ちた進歩的な指導性によるところが非常に大きい。教会の支部組織のある世界のいたる所で，彼の影響力を感じることができる。彼は大管長として最も旅をした人である。近代輸送機関を利用して，文字通り地球の隅々にまで旅し，聖徒たちと会い，宣教師を力づけ，礼拝堂や神殿を献堂し，いたる所で教会のために友を作った。その旅行の中には，イギリスとヨーロッパを数回，中南米およびメキシコ訪問，南アフリカ（マッケイ大管長は南アフリカを訪れた最初の教会幹部である）旅行，かつて大管長が足をのばしたことのないニュージーランドやオーストラリヤを含む太平洋諸国の伝道部訪問がある。

マッケイ大管長は教会幹部として，約64年の長きにわたった。十二使徒評議員会に指名されたのが1906年4月32歳の時であった。

デビド　O．マッケイは，1873年9月8日，スコットラン

マッケイ大管長御夫妻は御子息のデビド　ローレンス　マッケイ夫妻と共に1952年6月フィンランドのヘルシンキを訪れた。フィンランド伝道部長ヘンリー　A．マチスの出迎えを受ける四人。



デビド　O．マッケイ大管長のもとで5つの神殿が献堂され，そのうち3つはアメリカ国外であった。1955年8月ロンドン神殿のくわ入れ式を行なう大管長。

ドからの改宗者デビド・マッケイを父とし，ウェールズ出身のジェネット・エバンズを母として，ユタ州オグデンバリーハンツビルに生まれた。七歳の時，父は2年間英国で伝道する宣教師に召され，ハンツビルに残った母と子供たちは農耕に従事した。（マッケイ一族は長年ハンツビルの家を別荘として使っており，マッケイ大管長も最後の病にふせるまで，家族と共に生家で過すのを楽しみとしていた。）

デビド　O．マッケイはハンツビルで初等教育を受け，1894年ソルトレーク市のユタ大学へ入学，1897年の卒業の時には総代をつとめた。

卒業後宣教師に召され，父に続いてイギリスで伝道し，教会の傑出した宣教師の一人という評判を得た。このようにして，宣教師と指導者としての人生が始ったのである。1898年3月，グラスゴー地方部長に指名され1899年9月に帰国するまで一年以上その召しにあった。

1899年，現在はウェーバー州立大学となっているユタ州オグデンのウェーバー・アカデミーの教師に任命され，1902年にはこの学校の校長になっている。

マッケイ大管長は1901年1月2日ソルトレーク神殿において，ソルトレーク市出身のエマ　レイ　リッグスと結婚した。二人は世界中の末日聖徒の範となる理想的な伴侶であった。二人には七人の子供がいる。デビド　ローレンス　ケッケイ，ロウェリン　R．マッケイ博士，ロイヤル　リッグス　マッケイ（死亡），ラッセル（ロウ　ジーン）ブラッド夫人，コンウェイ（エマ　ラエ）アシュトン夫人，エドワード　R．マッケイ博士，ロバート　R．マッケイである。

1906年マッケイ大管長は使徒に召された数ケ月後，デゼレト日曜学校協会副管理会長になった。1918年，同管理会長に召され，1934年大管長会に召されるまでこの職にあった。マッケイ大管長は「日曜学校近代化の父」としてよく知られている。多くの貢献のうち，日曜学校プログラムの統一化や日曜学校レッスンの技術と方法の改善に関してはだれも及ぶものがない。幼稚園から大人のクラスまで，年令別で進んでゆく学習コースが始められ，全教会で教師養成プログラムが採用された。

マッケイ大管長は教会の教育プログラムに多大な貢献をなしている。1906年から1919年まで，彼は教会教育管理会の会員であり，1919年から1921年まで教会教育理事であった。また，ユタ大学の理事，ユタ州立大学の評議員であった。死去した時にも，彼はブリガム・ヤング大学の理事長，教会教育管理会長の職にあった。

1921年マッケイ大管長とヒュー　J．キャノン長老は教会の世界伝道部を巡った。このような訪問は教会幹部としては，はじめての事だった。

二人は南アフリカを除く全伝道部を訪れた。距離にして10万キロにも及ぶ旅行であった。

1922年，イギリスに本部を置くヨーロッパ伝道部を管理するよう任命され，2年間その職にあった。

その後10年間は，十二使徒として責任を果たし，教会の全世界にわたる活動の指導につとめた。そして1934年，彼はヒーバー　J．グラント大管長により，大管長会第二副管長に召された。彼は1951年大管長になるまで，グラント大管長，後にジョージ　アルバート　スミス大管長の副管長の職にあった。

教会役員として多忙な中にも，マッケイ大管長は市民としての多くの義務，責任を果たしてきた。1938年ユタ州知事は1947年7月のモルモン開拓者ソルトレーク峡谷到着百年記念を迎えるにあたって，マッケイ大管長を百年記念祭準備委員長に任命した。1947年になって，一年間にわたる州百年記念祭が行なわれたが，ここでマッケイ大管長の指導性がフルに発揮された。そして，ソルトレーク市東部の丘に美しく感動的なかの「まさにこの土地だ」の記念碑を建て，奉献した。

度々太平洋諸島を訪れた。美しいレイを受けてポーズをとるマッケイ大管長。

1955年8月，スコットランド　グリーノック　プリンセス桟橋でタバナクル聖歌隊を迎えるマッケイ大管長。

マッケイ大管長が1906年使徒に召されたころ。

そこは，ブリガム・ヤングとモルモンの開拓者が最初にグレート・ソルトレーク峡谷に足を踏み入れた地である。

マッケイ大管長は多くの説教，著書を残した。数々の書籍や月刊誌インプルヴメントエラ，インストラクター，聖徒の道にそれらが見られる。この宗教的な文献は，人々から愛された偉大な指導者の霊感あふれる指導性の記念碑として長くその名をとどめるであろう。

彼は多くの栄誉を受けた人であった。ブリガム・ヤング大学，ユタ州立大学，ユタ大学，ペンシルバニア州フィラデルフィアのテンプル大学より名誉博士号を受けた。1951年テンプル大学より名誉博士号を受けた時の表彰状の一部を引用してみよう。「氏の生涯は，教会の評議員，教会の学校の指導外国伝道の進展，教義と教えに関する書物の著作，教会関連企業の指導で占められてきた」1954年9月イリノイ州シカゴのサージョン国際大学は，マッケイ大管長の「人類の福祉に対する貢献と教育および人道主義確立への努力に対して」名誉会員称を贈った。その他，マッケイ大管長の人類に対する顕著な働きに対して数々の栄誉や表彰が贈られている。

偉大な人道主義者，模範たる父，社会の指導者，霊の指導者，霊感あふれる神の予言者を失なった今，何百万という人々は彼の死を悼んでいる。

デビド O. マッケイ大管長は1970年1月18日(日)朝　ソルト・レーク市にて逝去されました。
この記事は生前に書かれたものです。

実践のキリスト教

大管長　デビド O. マッケイ

わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても，もし行いがなかったら，なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。

——ヤコブ 2：14——

ヤコブはこの意味深い言葉の中で，単に心の中に感じているだけの信仰のむなしさを非難し，日常の生活と行ないに真理を応用することの大切さをほのめかしている。「真の人生とクリスチャンの活動に信仰を表わさなければ，それは死んだものであり，無用のものである」とヤコブは教えている。信じることと実行すること，高い理想を掲げることと日常生活にこれらの理想を実行することの間に，あまりにも大きな食い違いが以前から，また今日もなお存在している。

キリストを文字通りに神の御子として受け入れている末日聖徒イエス・キリスト教会は，キリストが天父なる神の特性と神格とをあらわされたと信じている。主御自身はまことにこの意味において次のように言われた。

「わたしを見た者は，父を見たのである。」イエスはその生活と教えを通じて，人間の生き方と社会関係の標準をお示しになり，もしその標準を個人の生活と人間社会の中に充分に取り入れるならば，それは現代の社会悪を改めるだけでなく，人類に幸福と平和をもたらすにちがいない。

過去二千年間に，いわゆるキリスト教国がそのような目標達成に失敗したと言われるならば，その失敗はまことのキリスト教の原則や教えを実行し得なかったことによると我々は答えねばなるまい。

キリストに心から従う人はみな，宗教によって，神との関係を示されるだけでなく，その関係を実際行動を通して，すなわち善悪の判断，責任の遂行に表わすことも教えられねばならない。

まことの宗教は生きている

これはパトリック・ヘンリーがその生涯を閉じる時，確かに心中に抱いていたような信仰である。彼はこう述べた，「私は今や全財産を家族に分け与えた。私には家族にぜひ与えたいものがもう一つある，それはキリスト教の信仰である。もし彼らがそれを持ち，私が一銭も彼らに与えなかったら，彼らは豊かになるであろう。しかし，もし彼らがそれを持たずに，全世界を与えられたとしても，彼らは貧しくなるであろう。」

純粋な宗教は，オイケン（ドイツの哲学者）が「純粋な天性」と呼んでいる，わがままで，みだらで，どん欲な性質を克服する力を与え，また「目に見える現実の世界を超越する

神聖な生活を経験させ」てくれる。

この哲学者はさらに続けている。「このような宗教なしに，まことの文明は存在しえない。霊的，精神的な触れあいをさけ，その内的な関係を拒む文明は，次第に文明のまねごとと化していく。」

六千年以上もの間，人類は利己主義，憎悪，羨望，どん欲，また戦争，荒廃，悪疫や死をもたらした動物的な欲望に無制限にさらされてきた。もし救い主の教えの最も簡単な原則に従っていたなら，これはすべて防ぐことができたであろうに。

教会は聖徒たちに，福音の原則に恥じない生活をするようにと絶えず勧めている。すなわち神とあらゆる聖なるものを敬い，正直，誠実，公正な生活をし，什分の一，断食献金を払い，日常の祈りをなし，安息日を遵守し，また，茶，コーヒー，アルコール性飲料，タバコ，麻薬などの刺激物をとることをさけるようにと勧めている。

証は強くなる

我々はみなヨブのような証をもちたいものである。ヨブは苦難のただ中にあって次のように言った。

「わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる，末の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの肌のうじがこの体を滅ぼしたのち，わたしは肉に在りて神を見るであろう。しかもわたしのこの目で見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこがれる。」（ヨブ19：25～27 欽定訳）

このような証をもたらすのは，福音の言葉と理想と教えに対する一致である。そして個人個人の強さはその証の強さと誠実さに比例している。我々が証を持つ時，迫り来る誘惑に抗することができる。

私はある少女から少し前に手紙を受けとった。その中に「私はお祈りを信じ，日曜学校に出席しています」と書いて，さらに教会の他の集会についてふれていた。それから彼女は弱さとわがままを認めた，これらは彼女のやさしい心にとって，あたかもバラの花に対するひどい霜のようなものであろう。そして彼女は立ち向う強さに欠けていた。そしてそのことがその愛らしい少女に多くの悲しみをもたらした。

大会やワード部や仲間の中にあって我々がなすことは，**世に広まっている悪に抗する力を**我々に与えてくれる。**我々はみなこの力を必要としている。この点で，教会の指導者，ステーキ部の役員，ワード部，定員会，補助組織の指導者には，大きな責任がある。若い人々は我々を見ているからである。我々は福音の原則に従うことにおいて，まず模範を示すべきである。**福音の原則に従って生活し，忍耐と信仰をもって天父の御業を待ち望み，我々が理解できない多くの事柄に関して，主の教えを受けるべきである。

四つの原則

これらの原則は数も少なく，簡単で，望むなら，だれにでも実行できるものである。これらの第一は，まことのキリスト教社会が築かれる基礎である。

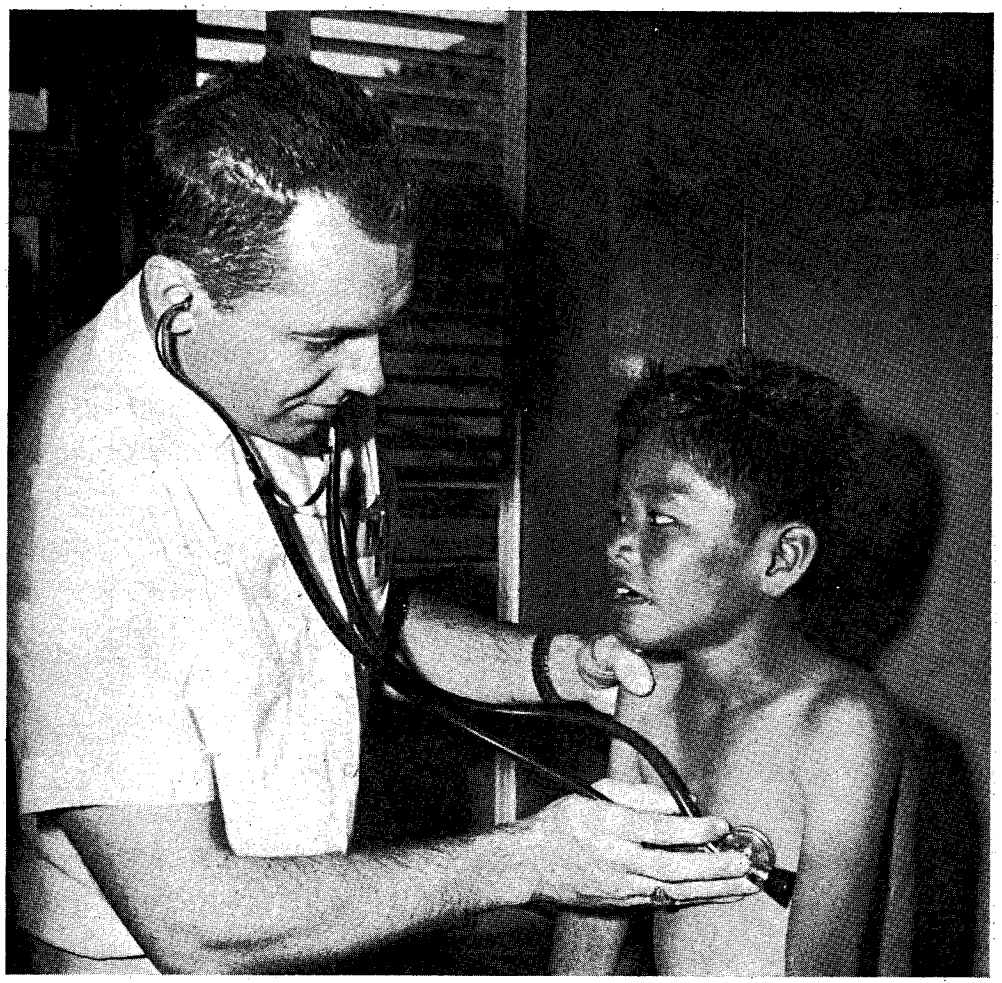
心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ——実に生きたまい，子供たちを愛したもう至高者に対する信仰——人に力と活力を与える信仰。主は導きをいただくために近づき得るお方であり，主を求める人々に御自身をあらわしたもうことが確かであること。次は，

人生は神よりの賜であり，それ故に神聖であるという真理を受け入れること。この賜を正しく用いることにより，人は自然の奴隷になるのではなく，支配するものとなる。人の欲望は制御され，健康と生命の延長のために用いられる。人の情熱は，他人の幸福と祝福，民族の永続のために，統御される，第3の原則は，

個人の誠実さ——これは簡単な日常の正直，穏健，他人の権利を尊重することなどであり，このようなことは仲間の信頼を勝ち得る。このことは個人と同様に国家にも当てはまる。力の強いある国が，他国を侵しそれをしいたげることは，個人が盗み，隣人を殺すことと同様に悪である。第4に欠くことのできないものは，

各個人の社会的意識——自分の生きてきた世界をよりよくすることが自分の義務であると実際に悟ること。予言者ジョセフ・スミスの次の言葉に表わされているのはまさにこの精神である。「もし私の人生が私の友にとって価値のないものなら，それは私にも価値のないものだ。」

いつの日か，賢明な人類は互いに正しい関係の中に生きることの大切さとしあわせとを悟るようになるであろう。この状態は単に信じること，雄弁な勧告によるのではなく，イエス・キリストの福音を社会生活，国民の生活および仕事において実行することにより達成され得る。そしてこの教えは，それを守る人を祝福し，そのうるわしい精神の輝きのもとに来るすべての人々をも祝福するのである。



世の秩序

G. ホーマー ダーラム博士

マタイによる福音書の第24章と25章には，イエスが「オリブ山ですわって」(24：3) 語られたことが記されています。そこで，イエスは「あなたがまたおいでになる時や，世の終りには，どんな前兆がありますか」(24：3)という弟子の質問に答えておられます。

いくつかの注目すべき変化が予言されました。警告の言葉が随所に見られいくつかのたとえ話が述べられました。「そしてこの御国の福音は，すべての民に対してあかしをするために，全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(24：14)「人の子の現れるのも，ちょうどノアの時のようであろう」(24：37)「だから，目をさましていなさい。その日その時が，あなたがたにはわからないからである」(25：13) そして，二つのたとえ話すなわちタラントの話(25：14〜30)と最後の裁きの話(25：31〜46) をされました。

この二つのたとえ話は前後関係の問題であるいは個々によく話題にのぼります。文学として，大切な考えとして教える方法として，この二つのたとえ話はそれぞれに価値があります。けれども前後関係で見ると，これらの話はマタイ24，25章にあるように救い主が

オリブ山で弟子達に話された予言，教えの一部です。

二つのたとえ話の関係はあきらかです。すなわち，タラントのたとえ話では，主人の命令は主より私達に与えられたものを知力と知恵をもって応用することです。私達は与えられたものをさらに伸ばすべきであり，責任をよりよく果たし，良き僕，役に立つ僕，忠実な僕になるべきです。そうしてこそ「主人と一諸に喜んでくれ」(25：21，23) の言葉にふさわしいものとなることができます。「役に立たない僕は」泣き叫んだり，歯がみをして，「外の暗い所へ追い出さ」(25：30) れるのです。

最後の裁きのたとえ話では，弟子達が物質的なもの（この場合の例としてタラント）だけに価値を求めないように，イエスはどのようにしたら人が本当の「価値」あるものを得ることができるかを示されました。

「人の子が栄光の中に来るとき……そして，すべての国民をその前に集めて，羊飼が羊とやぎとを分けるように彼らをより分けるであろう。」(25：31～32)

最後の裁きのたとえ話は，オリブ山で与えられた数々の教えのまとめになっています。この話がクライマックスとなっており，家庭に論点が向けられています。それは神を愛し隣人を愛するという二つの大きな戒めの意味を強調しています。

どうすれば，義しきに適い，王の右におかれる羊と共に座を占めることができるでしょうか。どうすれば「わたしの父に祝福された人たちよ，さあ，世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(25：34) という言葉を聞く人々の群に入ることができるでしょうか。

その答えはこのように記されています。空腹の人に食べさせ，かわいている人に飲ませ，旅人に宿を貸し，裸でいる人に着せ，病人や「獄」にいる人に慰めと助けを与えることです。(25：35～36) そして，そのような導きと教え，奉仕は，「これらの最も小さい者」(25：40) のためにするよう教えられました。

たとえ話では，これらの命令に心を留めた者は喜ばしい言葉を受けました。空腹の人に食を与えず，かわいている人に飲ませず，旅人や裸でいる人に着せず遠ざけ，病人や獄にいる人を見舞わなかった人は，王の左にいました。そして，こう言われました。「のろわれた者どもよ，わたしを離れよ……」(25：41)「そして彼らは永遠の刑罰を受け，正しい者は永遠の生命に入るであろう」(25：46)

この偉大な説教は，全人類のなすべきことを示しています。私達は隣人に仕えるために神より与えられた才能を伸ばさなくてはなりません。不幸な状況にある人々や困窮者のために働くよう私たちは特に召されています。すべての人がそのように召されているのではないことが両方のたとえ話の中に暗黙のうちに語られています。この教えは一人一人に与えられたチャレンジなのです。私はその中の一人に入るでしょうか。今は末の時代です。私に何ができるでしょうか。教義によれば，人々，町々，国々にもチャレンジが与えられています。

私は必ずしも，病人の世話や食物，衣料や援助を与えるなどの慈善事業のできる裕福な人が「羊の群」に入ることができるとは考えていません。また悲惨で冷酷な状態にあって自由のない国に住む，親切で思いやりのある人が「やぎの群」に入るとも考えてはいません。そうではなく，広い意味での才能を伸ばし，あわれみのある助けをすることは，個人にも団体にもあてはまることだと信じています。

最近，教会は次の二つの事柄を強調しています。その一つは，神の子供である家族全員に愛，食物，教育，徳を与えることのできる健全な家庭を築くことです。「私は神の子」の歌を学ぶ子供は，現代の都会生活に濫乱している不道徳や罪から守られています。また，個人や団体の幸福，世の中の秩序の鍵となるタラントの話や，最後の裁きで前提条件とされる事柄に対する準備の一歩を踏み出しているのです。教会で第二に強調されている点は，「今や全ゆる人皆各々その義務を覚れ。また己が務めを勤むべし」（教義と聖約107：99参照）です。

オリブ山で話された二つのたとえ話から，これらの強調されている点に至る道を見出すことができます。そこには個人の救いに関するビジョンとチャレンジが見られます。この教えには社会の不安を抑え，世の秩序に貢献するという根本的な問題が含まれています。

あなたの価値

エルウイン C. ニールセン

「彼は全くうぬぼれがひどい。だれよりもすぐれていると思っているし，話相手になるときでさえ，話してやるという態度だ」

あなたは今までに，だれかに対してこんなふうに感じたことがあるはずです。また，自分にひそんでいるうぬぼれにがっかりしたことがあるかも知れません。ですから，私たちはどうしてこのような誤った自尊心を持つのか，またどうしたらそれを防ぐことができるかを知る必要があります。逆説的に言うと，うぬぼれの強い人は普通自分の価値を知らないものです。どういうわけか，心の奥底で自分は価値がなく，人に嫌われていると思いこみ，人の目を恐れるようになったのです。

ナンシーは近所の友だちを見渡してもかなう人がないほどのきれいな洋服を持っていました。めったにバーベキューパーティーへは行かないのですが，バーベキューの時でもきれいに装っていました。それも普通以上に。そんな時，彼女は夫と一緒にいて，人々との会話に加わろうとはしませんでした。道で人に出会っても，口もききませんでした。実際多くの人が道であっても，あいさつ一つしなかったと話しています。彼女は夫が良い収入を得ているので優越感を持ち，普通の人とはつきあえないのだろうと多くの人は考えていました。実際は，その反対でした。近所の人々を卑下しているどころではなく，人に出会うと手足がすくんでしまい，口をきくことなどできなかったのでした。夫の社会的地位が自分と何ら関係ないことを知っていましたし，とても夫の社会的地位に相応のふるまいなどできないと思っていました。本当のところ，ナンシーは恐れと無能感に陥り，他の人のことを考える時間の余裕がなかったのでした。

多くの場合気づかないのですが，ナンシーの持っていたような恐れは，人をだめにすることがあります。人はすべて，外見的な成功とか容貌に関係なく，他人から愛されていると感じる必要があります。たしかに外見的な長所はすばらしいものです。しかし，もしある人が自分の職業上の名声や良い生活をさせてくれるというだけの理由で妻に愛されていると知ったら，その人はきっと自分に自信がなくなるでしょう。銀行の預金高やクラブの会員であること以外に，彼は価値があるのでしょうか。その人は自分の意識からそのような考えを追い出そうとけんめいになるでしょう。けれども，その考えは頭の中から離れるものではなく，ますます深みにおちてゆくのです。仕事の上で非常な成功をおさめているある人がどうしたわけか妻が自分と一緒にいるのは社会的な成功のためだと感じていました。こういった恐れがあるため，彼は妻を自分に引きとめておこうと一生懸命働きました。妻と話をしていて，あなただけを必要としているけれども，あなたはそう思っていないらしいと妻から言われても，彼は言葉通りに受け取れませんでした。彼はいらだち，おびえ，そのため

もっと働き，妻を放っておきました。そしてついに妻が自分を認めてくれる人を探しに夫のもとを離れた時，その人は全く打ちひしがれて，自殺してしまいました。

誤まった自尊心

このような恐れを抱いている人は，誤まった自尊心を持っている人であり，私に言わせれば自分の無価値感を補うために他のことで自分を高めようとしている人です。このようにうぬぼれの強い人は自分の無価値感を他人に着せようとします。他人を見下げることによって，自分がとても優れた人であり，周囲の人々よりも勝っているということを自分に信じ込ませようとします。

ロスは口論によってそれをしました。他人の言うことは何でも悪いと決めつけ，他人の考えをロスは自分なりのやり方でくだらないと決めつけていました。

誤まった自尊心は一見それとすぐに判り，うぬぼれだとか高慢だとか感じられるものですが，非常にわかりにくい場合もあります。ほめた言葉を真に受けないで，「いいえ，そんなことないでしょう」とか「こんな古いもの？長い間着てるから，恥ずかしいわ」とか言う人がいます。こういう言葉は真意を伝えずに他人をまごつかせ，他人に判断をまかせる質問なのです。

そのような人は，自分が無能であることを他人にかぶせたとしても，自分にも他人にもまわりのものに対してもなんとなく不満なのです。何を見てもおもしろくないのです。もし息子が学校で英語の成績が良だと，父は優ではないという理由だけで気に入らないのです。また他のすぐれた人を見ても息子へのあてつけになりはしないかと恐れて，その人をほめてやれないのです。彼の自尊心は傷つきやすく，言いわけや口実をつけて，ありのままの自分を自ら危険に立たせるようなことはしないのです。

こういった態度は，うぬぼれが強いと同時に自分に負けているのです。他人と自分との関係を考える時に，いつも恐れを先に抱いてしまうのです。彼は他人にも暖かい態度をとったり，支持したりすることができません。また神より与えられた力を伸ばすために全勢力を使うこともできません。なぜなら，言いわけをしたり，批評をしたり，要求ばかり多くて忙しいのです。

自尊心のある態度

これらの自分に負けている態度とは反対に，本当に自分の価値を認識している人は，考えと行動に矛盾がありません。彼は人間としての自分に満足を感じているので，いいわけがましい自尊心や誤まった自尊心には縁がありません。それは自分が何者であり，どう進もうとしているのかを知っているからです。現在の不完全をなげくのでなく，自分に見合った努力をしていくのです。ありのままの姿を進んで人に見せ，ねたみや比較や判断を入れず，他人と対等の立場で物を考えます。自分よりすぐれた才能の持ち主を見ると，それをけなすのでなく，自分より才能のない人に対すると同じ暖かい態度で，それを認めるのです。彼は自分の価値を知っていますから，有能な人を見てもおどおどすることはありません。他人の誤った自尊心を見せられても，その人の持つ恐れを理解し，同情してやり，進んで助けたいと思うのです。また，そういう人は彼の助けが必要なのです。なぜならば，その人にとって自分が友だちとしてふさわしくないと思うことほど，寂しいことはないからです。

私の友だちに，この種の自信を持った人がいます。彼は人にこう言います。「私はあなたといるのが好きだから，あなたも私のことを好きであってほしいですね。あなたと一緒の時間をもっと持ちたいと思っているんですよ」このように彼は，なりゆきにまかせるのでなく，自分から結びつきを作るため，自分の感じていることを表わし，自分をさらけだしているのです。

自己を信頼して示す愛

けれども，怒りや欲望はどうでしょうか。りっぱな人はこういった感情を覚えるでしょうか。ほとんどの人はその通り覚えるでしょうが，それをいいわけにして，他人の性格を攻撃したりはしません。そういった感情を認め，正しく扱います。自分の子供にはこう言うでしょう。「お前が妹とけんかしているのをみると，お父さんは怒りたくなるよ」彼はしつけをするでしょうが，それがどれほど悪いかを言って子供の心をせめるようなことはしません。他人の性格を攻撃することは，当人がそのつもりのあるなしにかかわらず，自分の性格の方がすぐれていると暗黙のうちに語っていることなのです。

イエスは他人を自分以上に愛せと言われたのではなく，自分と同じように愛せと言われました。この言葉の意味は非常に大切です。というのは，人には自分を愛していなければ，

他人を心から愛せないという性質があるからです。

現代の偉大な心理学者であるカール・ロジャースは，この積極的な自信が個人の進歩に欠くことのできないものであると述べています。また人は生来具体的な行動に表わす傾向をもっていると述べています。つまり知的，道徳的，霊的，肉体的に最大限の進歩をとげようとするという意味です。しかし彼は自身を何の束縛も受けずに認識しなければ，行動に表わすことはできないとも言っています。つまり自分の長所，短所，善悪の傾向を知っていなければならないのです。ロジャースの説によれば，自分の長所，短所が将来どの程度まで発展するであろうかを知っている人は，大体において良い人間であり，いつも自分を良い方へ導くような行動をとるであろうということです。

積極的に自分を尊ぶための七つの方法

生活から誤った自尊心をとり除くには，どの程度までに積極的な自尊心を持てばよいでしょうか。公式はありませんがここにいくつかの提案をあげたいと思います。

1　怒った時の自分を分析する習慣をつける

怒りが非常に悪いことだと教えられている人たちは，自分に怒りの気持があると知った時に恐れを感じます。そのため恐れはよく人から正しい自尊心を奪うことがあるのです。前にも述べたように，怒りは自然な感情であって，それを認めたら，社会的にも道徳的にも正しく処理しなくてはなりません。同じことが，いわゆる他の基本的感情にも言えます。

2　すべての感情・衝動を評価する習慣をつける

自分のありのままの姿を知ってください。これは，自分の弱点に拘泥するということでなく，自分の長所・短所を知ろうとする勇気を持ちなさいということです。心理学を学んだ学生なら，自己の判断を入れずに自分を解明して行くと，やがて自分の知らなかった点がわかり，弱点であろうと恐れていたところに，長所を見出すことを知っているでしょう。

3　定期的に自分の長所のリストを作る

多くの人は，積極的な態度で自身を見つめることを恐れます。私は時々，自分のよくできることとできないことのリストを作りなさいという試験問題を出します。そして，両方のリストの長さをくらべます。すると良い点のリストより悪い点のリストの方が長い場合が度々あります。それは，その人が決して欠点ばかりの人ということでなく，自分を積極的な態度で見つめることに恐れをいだいているのです。自分を良いように考えるのは悪いことだと思い込んでおり，うぬぼれになるのではないかとちゅうちょしているのです。

4　自分を大胆に人前で見せる習慣をつける

他人が見て，それを受け入れ，あるいは拒否できるように他人に対する自分の感情を大胆に表わしなさい。「私はあなたの考え方に賛成だ」とか「私はあなたの髪型が好きよ」とか「そういうきみが好きだ」などという言葉は，誤った自尊心のある人には言えない言葉です。誤った自尊心を持つ人はこういう言葉を述べて，それに対してお世辞を言ってもらおうと思っているのです。

5　家庭の夕べや楽しい夕食の話の時に，家族の全員に自分が本当に好きだと思っている点を言いなさい。ほとんどの人は，愛する人にさえ，積極的な注意を払っていないものです。

6　他人を助けることは自分の価値を表わすことであると知りなさい

会話を独占したり，他人の話を注意して聞かないということは，自分の意見の方が大切だと主張していることになります。自分の価値を知っている人は，自分の持っていない他人の才能や意見に，自分にはそれがないということで悩むどころかその人に注意を向けるものです。

7　意識して単調な習慣を打破しなさい

新しいことを考えたり，いつもと違う道を通って家に帰ったり，違う方法で仕事をしたり，普通は読まない本を数分間読んでみなさい。陰うつな人や他人から見てたよりない人は自分を世俗的で平凡な人間であると考えます。自分に関心を持ち注意をする人は，多くがしっかりした，自信のある謙遜な人です。

以上の提案は全部が全部の人にあてはまるとは限りませんが，もっと自分を知るための助けにはなると思います。だれも自分を完全に知ることはできません。大切なことは，自分を知ろうと注意し，そう試みることです。そうすれば自分の価値を知るにつれて，他人の価値もわかるようになるということを知るでしょう。

本当にいた

古代アメリカの大白神はまだ生きている！　考古学者，歴史学者の発見，著述により，大白神の存在は今や動かせぬ事実である。長い間土着民の伝説をおおっていた謎が，近代的調査と新たな発見により拭い去られ，この神と西半球におけるその働きについて何世紀にもわたってくり広げられた論争も終始符を打ったのである。

そのような神がいた。

コロンブスのはるか昔，神はアメリカに来た，神は古代の民に真実の信仰を教え，死者をおこし，多くの病人をいやし新しい農法を教え，平等と平和の政治を立てた。

神は超自然的な方法で突然に来て突然に去った。

古代の民は，彼を肉体をもって地上に来た創造主だと考えた。

莫大な数にのぼる証拠を見て，だれが疑い得ようか。

一人として，彼がキリスト教の神であることを否定できる者はいない。

教えは聖書に類似していたことが多くの人々に認められている。

彼の再臨の約束は，認められている聖典中の事実であり，続く歴史的事実がそれを証明している。

古代アメリカにおける白い神の伝説は，チリからアラスカにおよぶインディアンに代々受け継がれ，ハワイからニュージーランドのポリネシア人の間でも同じような伝説が残っている。

大筋において，それらの伝説はすべて一致している。島によりまた国によって名前やささいな点で違っているが，全体の話は同じである。すなわち，大白神がいたのである。大白神は彼らの先祖を訪れ，しばしの間教えと導びきを施し，再

大白神

十二使徒評議員
マーク　E. ピーターセン

び去った。天に昇ったと言う者もある。

その真実性について，ポール・ハーマンはその著書「人の征服者」の中で次のように書いている。

「この話をよく考えてみると，光の神クェツァルコートルは実在の人であり，スペイン宣伝機関の作り話でもなければインディアンの伝説的な作り話でもないと結論せざるを得ない」（P.72）

この神はメキシコの特にチョルーラ地方でクェツァルコートルとして知られている。またチアパスではヴォタン，オアヒカではウィケペコチャ，グァテマラではグクマツ，ペルーではヴィラコチャ，コスタス，ブラジルではスィーム，コロンビアではボチカと呼ばれていた。

ペルー人には，コンティキまたはイラティキとして知られていた。ティキは創造主と光の両方の意味である。マヤ人の間では主にククルカンとして知られていた。

ポリネシア諸島では，ロノ，カナ，カネまたはコン，時としてカナロアー偉大な光あるいは偉大な輝きとして，また，カネアケアー偉大な先祖あるいはタンガロアー大海と太陽の神として知られていた。

この大白神はどんな神だったのだろうか。

彼は背が高く，白い皮膚をしてひげをはやし，青い目をした人だったと記されている。またゆったりとした外衣を着，天からやってきて，天に帰った。

彼はやってきて何をしたのだろうか。病人をいやし，盲人の目を開き，不具者を立たせ，死者をおこした。人々に自分にして欲しいことを他人にしなさい，自分のように隣り人を愛しなさい，常に親切と慈愛を示しなさいと述べ，よりよい生活を教えた。

彼は偉大な権能とはかり知れない愛に満ちた方であり，丘を平原に変え，平原を高い山に変える力を持ち，堅い岩から泉を湧かせることができた。

人々が平和に暮らすための律法を与えたほか，学問を求めるよう勧め，改良された農法を教えた。

彼の来訪にまつわる驚くべきことのうちには，全地が闇に包まれ，人々が太陽が戻ってくるよう祈った後に彼が現われたということがある。暗闇が全地を覆った時，「人々は非常な苦難に陥り，消え失せた光を求めて彼らの神に祈り，地にひれ伏した。」光が戻ると，「大柄な白人が現われた。そしてその人の態度と容姿は人々の間に大きな尊敬と崇拝を呼んだ……。人々は彼の力を見て，万物の創り主，創始者，太陽の父と呼んだ。」（ペドロ デ チェザ デ レオン著「インカ」）

この人は教えを施こした時に，礼拝するための大きな神殿を建てよと言った。そして，彼に従う人々は心から彼を信じるようになった。（ピエール・オーナー著「白神を求めて」P.16）

彼は人々を離れる時，再び訪れることを約束した。ちょうどユダヤ人が約束された救い主を持ち望むように，土着民は白神の再臨を待ち望むこととなった。

しかし，この信仰が悲劇を生んだのである。スペイン人がアメリカに来，クック提督がハワイ諸島に到着した時のことであった。しかし，これらの悲劇も白神の真実性を増々証拠だてるようになっただけである。

スペインのコンクウィスタドーが南アメリカに着き，ピザロの副官の一人がかぶとをかぶり，胸当てをつけ，輝くマスカット銃を持って海岸に飛びおりた。印象的な姿をしていたのである。

海岸にいた土着民は驚いて目を見張るばかりであった。彼は白人だったのである。ペドロ デ カンディアが歩き出すと，土着民はひれ伏して，口々に「ヴィラコーチャ，ヴィラコーチャ」と言った。勇敢なペドロもこれには驚かされた。土着民は彼に近寄り，とり囲んだ。少なからず恐れをいだいていたペドロはおどかしに空中めがけて銃を一発打った。しかし，土着民は動こうともせず「イラティキ，イラティキ」とささやいていた。これは，「光の神」という意味である。

インディアンは彼が再来した白神ヴィラコーチャであると

思い，銃を見て，彼が雷と稲光をあやつったと考えたのであった。

ヘルナンド・コルテスも同様に，1520年メキシコへ行った時，再来した白神だと信じられた。海岸近くに住む土人が彼を見た時，彼は白人で男たちを従え，白い帆の大きな船に乗ってやって来た。土人たちは急いで首長モンテズーマのもとへ行き，大白神が着いたと知らせた。

モンテズーマは驚いた。彼が首長になった時，アズテックの祭司がこう言ったのを思い出したからである。「この王位はお前のものではない。お前に貸し与えただけである。いつの日か帰るべきお方に返すことになるであろう。」（ピエールオーナー，前引用書 P.66）

モンテズーマは，アズテックの宗教によって待ち望むよう教えられた白神を崇めるべく，あらゆる敬意をもってコルテスを歓迎する準備をした。高価な贈物がコルテスに捧げられ豊かな土地が明け渡された。コルテスは神として崇められたのである。しかし，間もなくコルテスの裏切りにより，戦争となった。モンテズーマは王位を失ない，殺された。しかし伝説は残ったのである。

ジェームス・クック提督がハワイ諸島に入航した時，彼も白神と間違われた。ハワイの土人もアメリカの同族と同じように，大白神の再臨を長い間待ち望んでいた。

それまでに見たこともない白帆を張った大船に乗った白人の提督クックを見て，ハワイの土人は彼を長い間待ち望んだ金髪の神ロノとして受け入れ，崇めた。

クック提督が到着した時は，折りしも，白神ロノの伝説に従って行なわれるマカヒキ祭の最中であった。カラニオプウ王は彼を式典に招き，土人の祭司たちはロノを祭る大きなピラミッドへ案内した。とまどいながらもこの英国の探険家は土人の敬意を受け，礼遇を受けた。

しかし，クックに率いられた水夫は天使らしいところなど少しもなく，彼らの略奪がクック隊への土人の怒りを買い，戦いとなり，クックは一命を落した。

しかし，またしても，伝説は続いた。

白神の物語が代々伝わっただけでなく，白神の教えも，土着民の心に今なお生きている。

何年もの間，男たちは戦争に行き，しばしば殺されたので女たちが伝説と系図を守った。女たちは子供や孫に物語を話

した。

スティーブンの「中央アメリカ旅行中の出来事」の中に注目すべき調査の結果が記されている。著者は古代グァテマラおよびトルデックインディアン王国の記録者であったフェンテスが民の起源について述べた言葉を引用している。

フェンテスの記録によれば，民はモーセによりパロ王の虐殺から逃れたイスラエル人であり，紅海を横切った後，地方の人々の影響を受けて偶像崇拝者となった。モーセのしっ責を逃れるため，民は四散した。タナブという男の指揮で民は国から国へとさまよい，ついにメキシコ王国の一部であり七つのほら穴と呼ばれる地にたどりつき，そこにチュラの町を築いた。指揮者のタナブからチュラとクイチ族が出たと言われている。

また，4人の兄弟が家族を率いて遠い国を離れ，東に向かい，新しい世界を見つけ，そこに町を築いたという伝説もある。

古代クイチ・マヤの神聖な書物であるポパルヴー（オクラホマ大学出版発行）によれば，古代アメリカ人は神会を信じていたと記されている。彼らは天の父母を信じ，永遠の父と御子とは天と地の創造者であると信じていた。神会は，カクルハ・ハルカン，チピ・カクルハ，レカ・カクルハとして知られ，天の心と呼ばれていた。

またポポパルヴー* には，万物の創造者であり造り主であった三方からなる神会が創造の業を行なったと記されている。これらの古代アメリカ人は，多くの点で高い文化を持ち宗教的な民であり，性別がなく，形がなく，幻のような神を信じてはいなかったことが現在に至って判明した。彼らにとって，神会は実在のお方であり，性別があり，人格を持つ方であった。また天の母もいた。

また同書に，古代アメリカ人は前世を信じ，悪魔も前世に存在し，悪魔はすぐれた才気と力を自慢し，「わが眼は銀の如くして，宝石やエメラルドの如く光り輝く。わが歯は全き石の如くにして空の如く輝く。……然して，われは全人類にとりて，太陽なり，月なり。」と言ったと記されている。

この悪魔は神の栄光を奪おうとしたが，失敗した。「かの野望はただ自らを高くし，支配することだった。」

古代インディアンの記録にはこの点について，「われらの初めの父と母は創造されしにあらず」と記されている。

また木の実を食べるようそそのかされた女が，「私は死すべきなのか。この実を食べたら私は死ぬるのだろうか」と尋ねた物語も記されている。

（ノアの）大洪水の物語も古代アメリカ人やポリネシア人の間で話されている。

北メキシコ，主にヤクイインディアンの伝説には，十二人の聖い人の一人の生き残りが，人々の間で教えと導きを施した話がある。また主の晩餐の聖餐の形態について述べられている。土着民は彼らの神を覚え，大きな悲しみのしるしとして神聖な象徴を食べ，飲んだ。

ポリネシア人同様古代アメリカ人にとって宗教は生活の重要な部分を占めていた。ポリネシア人は彼らがアメリカから移った時に宗教も携えていったと信じている。この点に関する書物は何巻か書かれている。

この大白神とはだれのことであったのだろうか。

イエス・キリストがユダヤで教えと導きを施しておられた時，別に信じる者すなわち他の羊について話された。（ヨハネ10章参照）キリストは他の羊のところへ行き，導きと教えを施すと約束し，アメリカでそれをされた。

古代アメリカでもパレスチナと同様，同じ時期に予言者たちが導きと教えを施した。

これらの西半球の予言者たちはパレスチナにおけると同様自分たちの神聖な歴史を書いた。このようにしてもう一つの聖典が作られたのである。モルモン経として知られるその書物には古代アメリカにおける神の業が記されている。聖書が旧世界の神聖な歴史を記していると同様である。

モルモン経には，白神がパレスチナで復活された後アメリカを訪れた事実が記されている。その時アメリカには何百万という人々が住んでいた。ある者たちはキリストが自分たちの国を訪れたもうことを信じていた。それをあざける者もいた。信ずる者は主に仕え，あざける者はことごとく悪の道に従った。

星をみつめる少年

ゲール　テッパーマン　バークレイ

ホームスパンのセーターのようにまっかな顔をして，ラザロはあわてて部屋からかけ出しました。家のそとに出てからも，おとうさんとおとうさんの友だちのわらい声が耳からはなれませんでした。ラザロは足がいたくなるまでどんどん走りました。むねはおもくるしく，心ぞうはドキドキしていました。そして，もう家の屋根が木のかげにかくれて見えないところまでくると，やっと走るのをやめました。

「どうしてみんなはぼくをわらうんだろう。どうしてぼくにやらせてくれないんだろう」。ラザロはおこったようにつぶやきました。

その年は1740年でした。イタリア北部スカンジアーノのラザロの村をかこんでいる森にも，寒い灰色の冬のおとずれが感じられました。

ラザロ・スパランツァーニのおとうさんは，みんなから尊敬されているりっぱな法律家でした。おとうさんはラザロも法律家になってほしいと考えていました。

あるとき，おとうさんはラザロをうす暗い書さいにつれていき，そこでほこりにまみれたぶあつい本をめくり，山のようにつまれている法律の書類をほこらしげにさしながら言いました。

「いつかこれはぜんぶおまえのものになるのだよ」

「私は一生かかってこの道をきり開いてきた。こんどはおまえがその道を歩くばんだ」

しかしラザロ・スパランツァーニは，おとうさんとはちがう方面にあこがれていました。法律は古い問題の答えばかり書かれていましたが，ラザロの頭の中は知らない問題，答えのまだない新しい問題でいっぱいでした。なぜ空は青いのだろうか。なぜ人間は鳥のように空を飛べないのだろうか。平らな石を湖の水面にそって投げると，なぜぴょんぴょん飛ぶのだろうか。そして，スカンジアーノの森の中のふしぎな，自然の泉はどうしてふつふつとあわをふき出すのだろう。ラザロは，そのいずみについておとうさんにたずねたことがありました。

「むかし，五人の美しい娘たちが両親の言いつけを守らないで，森のおくふかくにピクニックに出かけたのだよ」と，ラザロのおとうさんは答えました。

「ところが娘たちは道にまよってしまった。助けをもとめ

てさけんだが，その声にこたえてくれる人はだれもいなかったのだ。それきり，人々は娘たちを見なかった。それいらい娘たちの涙はいずみになって，地面からわきつづけているのだよ。」

ラザロはりっぱなむすこなので，おとうさんの話にすなおにうなずいていました。しかし心の中で，ラザロは，いずみにはなにかほかの理由があるはずだと思いました。

ある日の夕方，ラザロはだんろの前にぎょうぎよくすわって，床の上にひろげられた，つまらない法律書について，お父さんの長い説明を聞きました。おとうさんのかがんだ肩のむこうには冬の空にかがやく星が見えました。ほかのよりもっときらきらかがやく星があるのはなぜだろう。いったい星はどこからきたのだろう。星までどのくらいはなれているのだろう。人間は星に行くことができるのだろうか。

「ラザロ！　おまえは聞いているのか？　何をみているのだ？」

ラザロは答えました。

「星です。おとうさん，おとうさんは星がみんな同じ大きさだと思いますか。」

おとうさんはラザロをじっと見ました。そして，おこって大声でどなりました。

「星の大きさがどうであろうと，私の知ったことではない！　おまえもそんなことは知らなくていいはずだ。いったいおまえはなににになるつもりなのだ。りっぱな法律家か。それとも星ばかり見ているなまけ者か。」

「いいえ，どちらでもありません。ぼくは科学者になりたいんです。」とラザロははっきりと答えました。

「科学者だって？　おまえはラテン語やギリシャ語やフランス語を読むことができるのか。数学の問題はとけるのか。論理学の問題や答えを理解できるのか。え？　科学者さん。」

そして，ラザロのおとうさんは首を横にふりながら，言いました。

「近ごろの子どもたちは，なにを考えているかわからない。ラザロ，おまえは科学者としてではなく，法律家として教育をうけてきたのだ。おまえは法律家になるのだ。」

しかし，おとうさんのその言葉を聞いたラザロは，とつぜんあることを考えたのです。その考えは，いくどもみつめてきた星のように，ラザロの頭の中できらきらとかがやいていました。

ラザロのおとうさんは，大きな書さいをもっていました。おとうさんの友だちもそうでした。そこでラザロは，必要な本を見つけて自分で勉強しようと思ったのです。まいばん，ラザロはだんろの前にぎょうぎよくすわって，あつい法律書を勉強しました。そしてあれやこれやとたいくつでめんどうな説明を，じっと聞きました。なぜなら，ラザロはおとうさんを尊敬し，愛していたからです。ですから，ラザロは法律の勉強をなまけたりはしませんでした。

しかし，ほんの少しでもひまな時間があると，ラザロはほかの勉強をしました。ギリシャ語，フランス語，論理学，そしてラテン語の勉強をしたのです。ラザロは，ひっしになって勉強しました。森に数学の本をもって行って，わきでるいずみのそばにすわり，先のとがった棒をみつけて，土の上に数字を書いては問題をときました。こうしてラザロは頭がいたくなるまで勉強しました。もうラザロ・スパランツァーニは星をみつめる時間もないのです。

とうとう，ラザロは先生がいなくともたくさん勉強できたとわかる日が来ました。しかしラザロがおとうさんの所へ行って，長い寒い冬のあいだ何をしていたのかを説明すると，おとうさんはラザロの言葉をはねつけて言いました。

「それはけっこうなことだ。だが，それで科学者になれるとでも思っているのかね。少しばかりのギリシャ語と，少しばかりの数学の勉強で！　そんなばかげたことは忘れてしまいなさい，ラザロ，おちついて，良い法律家になれるよう勉強しなさい。」

おとうさんはラザロの話をきいてくれませんでしたが，ラザロは科学者になる夢をすてませんでした。とうとうラザロは，そのころ，もっともりっぱな科学者として知られていたヴァリスニェリーさんに会いに出かけて行きました。

「それで，君は科学者になりたいのだね」とヴァリスニェリーさんは言いました。そして，

「よろしい。それはとてもすばらしいことだ。だが，君は科学者になるためではなく法律家になるために勉強してきた。科学について，どんなことを知っているのかね？」と言いました。

ラザロはヴァリスニェリーさんの羽ペンで，フランス語とギリシャ語の詩の一節を書きだしました。

「フーム，ではほかに何かできるのかね？」とヴァリスニェリーさんは言いました。ヴァリスニェリーさんはラザロか

らペンをとりあげると，はしり書きに数学の問題を書きました。

「この問題をといてみなさい」。

ラザロは，あっというまに問題をときました。

ヴァリスニェリーさんはひげのはえた口もとをピクピクさせました。

そして，立ちあがるとうしろのたなから一さつの本をとり出しました。

「ここだ」と本をあけると，ヴァリスニェリーさんはふるえているラザロにその本をわたしました。

「この問題を論理的にとけるかね。」

ラザロは五分間ほどその問題を考えていましたが，それからおちついて名高いその科学者に本をかえしました。

「いいえ，私にはとくことができません。」とラザロは答えました。ヴァリスニェリーさんは，くるりとうしろをふりむくと，うれしそうに大声でわらい出しました。「そのとおり！　君は頭もいいが，まったく正直な子だ」とヴァリスニェリーさんは満足そうに言いました。「今までこの問題をとけた人はだれもいなかったのだよ。君は，本当に科学者になるために生まれてきたようだ。ざんねんなことに今まで法律書の勉強で大切な時間をむだにしてきたね。いったいどうして法律の勉強なんかしていたんだね？」

「父はぼくが法律家になることを強く望んでいるんです。」

「ほう」。そう言ってヴァリスニェリーさんは立ち上がりました。

「きなさい。私が君のおとうさんに話してあげよう。」

二人は強い日ざしの中をいっしょにラザロの家に向かいました。ヴァリスニェリーさんがだんろの前でおとうさんと話しているあいだ，ラザロは頭をさげて，静かに立っていました。

「あなたのむすこさんは研究家になるつもりなんですよ」ヴァリスニェリーさんはげんこつでテーブルをたたきながら大きな声で言いました。

「かれはスカンジアーノ村を有名にしてくれるでしょう。彼はガリレオのようになる人です！」

ラザロのおとうさんは，「しかし，ラザロは私の息子です。決めるのは私です。」と言いました。ヴァリスニェリーさんはだまっていました。

ラザロのおとうさんは長いあいだ，部屋いっぱいになっている法律書の書類をみつめていました。それからラザロのほうを見ました。ラザロは顔をあげておとうさんの目をみつめました。おとうさんはとうとうラザロに言いました。

「一週間以内にレジオ大学の新学期が始まる。それまで準備できるかね，星の研究家さん？」

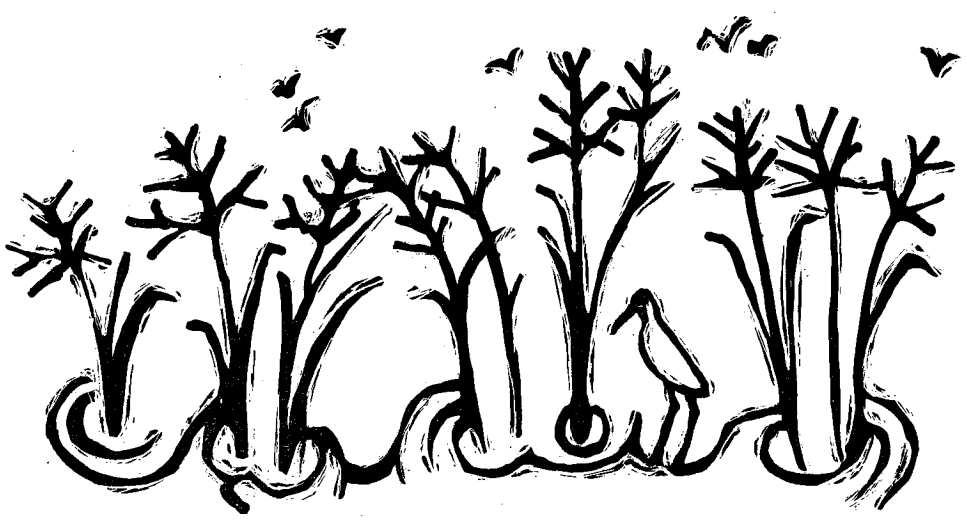
ほんの少しのあいだ，ラザロはおどろきのあまり言葉もでませんでした。それからかんしゃの気持でいっぱいになり，よろこびでむねがさけそうになっておもわずおとうさんにだきついていきました。

ラザロ・スパランツァーニは，いつかイタリア一番の科学者研究家となることでしょう。そして，目にみえないほど小さな動物の秘密を発見するえらい科学者，むずかしいホーマーの詩をわけなく訳す人，そして石が水面をぴょんぴょん飛ぶ理由を調べるりっぱな研究家になることでしょう。

しかし，ラザロは，星を見つめていろいろな疑問を持つほかの少年たちと少しも変わらない。イタリアの少年だったということを忘れてはなりません。

＊ラザロ・スパランツァーニ（1729〜1799）

受精現象，呼吸作用，消化作用，循環器に関する実験で有名なイタリアの学者。論理学，形而上学，ギリシア語教授



あしの朝食

ジョアンナ C. シラー

あしの朝食ですって！　どこでそんな朝食がでますか。それはどんな味がするのでしょう。

昔のエジプトに住んでいた人々ならば，あしをなまのままあるいはにて食べていたので，どんなものか私たちにおしえることができたでしょう。赤ちゃんのモーセが，あしで作ったかごにのせられて川にうかべられた話え考えると，あしはちょっと食べられそうもないように思えますね。でもエジプト人はどのようにりようりをすればいいのかちゃんとしっていました。きり口が三角形の形をしたあついあしのくきは，外がわがせんい状で中はやわらかく，しんが通っています。食べ物としてつかわれたのはこの内がわのやわらかいぶぶんなのです。

この水によく合うあしでできた舟の通り道としてナイル川が知られています。このようなあしで作った舟に人々は，モーセのかごのようにどろどろしたものをぬりました。このどろどろしたものはアスファルトとよばれ，道路をほそうするときにつかうあの黒いねばねばしたものはこれから作られるのです。

ナイル川での舟あそびはきっと楽しかったことでしょう。その大きな川の岸には，てっぺんが羽毛状で小さなちゃいろの花をさかせたあしが，ときどき３メートルもの高さでならんでいました。ばしよによっては，あたりいちめんこのふしぎな植物でおおわれているところもありました。つばめはその川をあちこちとびまわって虫をつかまえ，白黒まだらのアイビス（小さなつるのような鳥）は，あさせにおりてきて魚やかえるをつかまえました。大きなワニが水の中をおよいだり，陽のあたるどてでやすんでいるのも見ることができたでしょう。ワニのそばにいて，はをつついたり，せなかをつついてきせいちゅうをとっているワニちどりは，ワニのともだちなのでしよう。

ときどき「エジプトのあし」ともいわれたあしは，舟をつくったり，りようりをしたりするためだけでなくほかにもいろいろなことにつかわれました。昔のエジプト人はあしをまきのかわりにつかったり，うわばき，いふく，えふで，舟のほ，ひも，しきものなどをつくるのにもつかいました。そしてあしでかみもつくりました。

あしのことをべつにパピルスともいいます。このパピルスからえいごのペーパー（かみ）ということばができました。あしでつくったかみを20まいぐらい，はじとはじをのりでつけて長いかみをつくりました。そしてそれをぼうきれやきんぞくのぼうにまいたものを「まきもの」とよびました。エジプト人だけでなくギリシア人やローマ人のふるいれきしはほとんど，このようなあしでできたまきものにかかれました。

モーセのじだいには，あしをほそくけずってペンのかわりにし，すすやにかわやなまゴムを水にとかしてインクのかわりにつかいました。一まいのかみをつくるのにうすくきったあしのしんが二まいひつようでした。その二まいのあしのしんをだいのうえに，かさねるようにちょっかくにならべるのです。いちばんははのひろいしんでできたかみは，もっともねうちがありました。二まいにかさねたあしをナイル川の水につけました。それはたぶん二まいのあしをくっつきやすいようにするためだったのでしょう。それからそのあしをつぶし，こなごなにしてかわかしたあとで，貝がらやぞうげでなめらかにしました。

モーセがイスラエルのたみをつれて，やくそくの地にむかったとき，エジプトでつかわれたこのようなかみをいっしょにもっていったのかどうかしらべてみるとおもしろいでしょう。モーセは書きものをするのにパピルスのまきものをつかったでしょうか。それはいつかきっとわかるにちがいありません。

十字架上のはりつけが行なわれ，地震がパレスチナを襲った時，西半球にはさらに激しい地震，暴風雨，大火災が起った。モルモン経にはこのように記されている。

「第三十四年一月四日，いまだかつて全地にあったこともないすさまじい嵐が起った。恐ろしい大風と恐ろしい雷とがあったために全地はまさに裂けるばかりに震動した。また全地にかつてなかったほどの激しい，空も裂けるほどの雷光があった。ゼラヘムラ市は火を発した。」（Ⅲニーファイ８：５～８）

記述によると，被害は甚だしく，道はくずれ，町々は海に沈み，死者は多数にのぼり，全地の表は変わった。これらすべては約３時間の出来事だった。

そして，「地はことごとく暗黒となったが，この暗黒の霧はまだ亡びなかった人がこれに触れると感ずるほどに深かった。」（Ⅲニーファイ８：20）

この状態が三日間続いた後，声があった。「……民はみなこの声を聞いてその証をしたが，その声は次のように言いたもうた。『破壊されたるこれら大都会の住民なるヤコブの子孫，すなわちイスラエルの家に属する者よ。雌鳥がその雛を翼の下に集むるごとくに，われは幾度汝らを集めて養いしことぞ。……雌鳥がその雛を翼の下に集むるごとくに，われは幾度汝らを集めんと望みしことぞ』」（Ⅲニーファイ10：３～５）

数日後，大勢の人々がバウンテフルの地の神殿の回りに集まった時，三度声があった。

「すると三度目にはその声の意味が判った。その声は『わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け』とかれらに仰せになっていた。群衆はその意味が解ってまた天を仰ぐと，天から一人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して，降ってきて群衆の中に立ちたもうた。群衆の目はみなこのお方の上に注がれたが，互いに物を言う勇気がなかった。みなは自分らに現われたこのお方を天使であるとは思ったが，そのお方が降りたもうたわけは知らなかった。時にそのお方は手を伸して群衆に話しかけて仰せになった。『見よ。われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み，世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於て，われは最初よりすべて御父のみこころに従えり』と。イエスがこの言葉を言いたもうと群っていた一切の者は，キリストが昇天してから自分らに現われたもうと言う予言が自分たちの間に伝えられていたことを思い出して地にひれ伏した。その時主は群衆に向って言いたもうた。『汝らわが肋にその手をさし入れ，わが手足にある釘あとに触れて，われがイスラエルの神にして全世界の神なること，またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ』と。そこで群っている人々は近よってその手をイエスの肋にさし入れ，またイエスの手足にある釘あとに触れた。かれらは，一人一人みなイエスに近よってこれをなし，各々みな目で見，手で触れて，この御方，予言者たちによってこの世に来ると誌されたお方であることを確かに知り，また証をすることができた。人は各々みな近よって親しくこれを見，親しくこれに触れたからみな一せいによばわって，『ホザナよ。いと高き神の御名を讃美す』と言い，イエスの足下にひれ伏してイエスを拝した」（Ⅲニーファイ11：６～17）

その日の後，この神聖なお方は聖餐としてパンとブドウ液の祝福を教え，病人，苦しむ人，不具者，盲人，おしの人を集めていやされた。また主の御名において教え，バプテスマを施すための管理体系を組織し，指導者や大勢の人々に教義を教えられた。そして何日かの後，「雲が出てきて群衆を覆ったからかれらはイエスを見ることができなかった。群衆が雲に覆われている中に，イエスはかれらを離れて天に昇りたもうた。弟子たちはイエスがまた天に昇りたもうたことを見てその証をした。」（Ⅲニーファイ18：38～39）

これは大白神の真実の物語である。大白神はキリストであり，全人類の救い主である。

＊ポパルヴー　17世紀に土着民によりラテン語で書かれた。原コロンビア人の起源が象形文字で記されている。

信じようとする望み

ケネス R. ハーディ

しかし，あなたたちがもし目をさましてふるい立ち，その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば，たとえ信じようとする望みを起すだけでもよい。しかし……信仰ができるようになるまで，この望みを育ててゆけ。（アルマ 32：27）

今日の混乱と闘争の世の中にあって，毎日の新聞を読んでいてさえ，私たちは世のありさまに憂うつになります。世に失望してこう叫んでいる人もいます。「こんな恐ろしい世の中へ子供を産むことなど考えられない」。人生を，「意味のない騒音と怒気に満ちている[1]」という人もいます。

どのようにしたら，神が在したもうことに信仰を持ち，この非常に乱れた世の中に子供の産むことに自信を持てるでしょう。いったい生命には価値や意味があるのでしょうか。世の中は苦悩に満ち，事態は次第に悪化していると主張する悲観論者の説を証明するものは非常にたくさんあります。もちろん，証拠があるとはいえ事実だけに基づいて楽観論者を納得させるのは難しいことです。

日常生活の問題の多くは，五感によって答えが得られるものであり，一般に認められている方法で証明することができます。病理学者は組織を標準テストしてみて，できものが悪性か悪性でないかを判断します。同じようにして地質学者は岩の組成が火山質か，変成質か水成質かを判断します。農夫は馬の牽引力をテストするのに実際に引かせてみてその強弱を見ます。とった方法が間違っていない限りテストの結果は決定的なものです。結果は単なる試験者の望みや先入観の反映ではありません。試験者の信念にかかわりなく結果は同じです。

しかし，霊的な事柄は物理的なテストや方法だけでは決められません。

「信仰については私がすでに話したように，信仰とは完全に物事を知ることではない。それであるからあなたたちにもし信仰があるときには，まだ見ていない本当のことを待ち望む。」（アルマ 32：21）

神の実在や不死不滅が真実であることを証拠だてるものはありますが，懐疑主義者を従わせるにはほど遠いものです。手近の物理的証拠だけをとって問題に決断を下すことはできません。少年ジョセフ・スミスが読んだヤコブ書の聖句を例にとってみましょう。もし知恵に欠けていれば，「神に尋ねる」ことができると記されていました。しかし，聖句には大切な条件が含まれています。「ただ，疑わないで信仰をもって願い求めなさい。」これは神は疑いを持つ者には答えたまわないことを述べています。（ヤコブ 1：6～8参照）モロナイは本質的には同じことを述べ，モルモン経を読む者は聖霊により，この本が神聖なものであることを確かに知るであろうと約束しています。モロナイは，尋ねる者は「誠心誠意でその上キリストを信じながら問」わねばならないと言っています。（モロナイ 10：4）

これらの約束は，大きな信仰が得られるように心の証が与えられるということです。この意味で信仰は与えられる賜と言えます。私たちは，読む，求める，研究する，探す，ふさわしく生活するなど，自分でなさねばならないことがあります。さらに，神が私たちの求めに応じてくださるという確信を持つことが必要です。神の答えは，私たちの信仰を強め大きくする賜です。

強い信仰とその結果としてもたらされる霊にめばえた確信は，この世的な問題を解決するために私たちが必要だと思っている条件を満たして余りあるものです。神の存在と神の神たること，死後の生命の真実性，善が必ず悪に打ち勝つこと，といった根本的な問題は理性や証拠といつた平凡な方法では答えを得られる性質の事柄ではありません。疑いを抱く者に確信を得させる霊的な「しるし」は生まれません。それは，信じる者の信仰に付随するものです。この世の生活は試しの状態だからこそ，神は私たちに疑いをはさみ得ぬような確かな答えや決定的な証拠をお与えにならず，信仰によって生活することを選ばれたのでした。

1　シェークスピア　マクベス第五場

人　生　の　指　示

リチャード L. エバンズ

人が考えずにはいられないひとつの質問がある——人生の生き方をどこに求めるべきであろうか，我々人間は，どこに指示をあおぎ，どう生きるであろうか。では，対比して考えてみよう。我々が構造の複雑な道具，器具，車などを使う時，使用法は何によって指示されるのであろうか。それは何のために作られ，どのように使用され，どんな手入れが必要なのか，どういう働きをするのかを一番良く知っているのはだれであろう。そのものについて一番よく知っているのは，もちろん，その設計者，製作者である。人生もそれと同様，人間，人生の目的，人の可能性について最もよく知っているのは，創造者である。心身の健康と平和と幸福のために，なぜ道徳，労働，節度，法の遵守が必要なのかを知っているのは，創造者である。創造主は我々にすばらしい心と体の機能を与え，なすべきこととしてはならぬことを教え，ふさわしからぬ行ないや不健全な習慣，思慮に欠けた生活などにより，良心を傷つけ，人生をだめにしてはならないと教えられた。それはごく自然である。子供に無関心な親はいるであろうか。子供の物的，精神的道徳的霊的な健康としあわせを考えない親はいるであろうか。我々の御父が，子供たちにかかわりあることに関心を持っておられないはずはない。御父は我々に標準を教え，助言といましめと責任，律法を，さらに最高の幸福，最大の可能性に至る人生の生き方を教えられたのである。そのほかのどこに最良の生き方があるだろうか。だれに我々の永遠の生活をゆだねられるであろうか。地上には賢人も多い。しかしすべてを知っている人はいない。悩む人々，問題をかかえた人々，道を求めている人々よ皮相を越え，ゆれ動く論理を越え，無責任な強制や誤った仮定を越えなさい。人生の意味目的，その平安，限界を知り，永遠の可能性をしっかりみつめなさい。あなたの求めている指示を，あなたの創造主に，あおぎなさい。

家　族

管理監督

ジョン　H. バンデンバーグ

動物の世界には，永遠に続く家族生活などというものは存在しない。子供たちはほとんどの場合母親の手だけで育てられる。動物の世界にあっては，子供は普通ほんの短い間，すなわち生存する方法を教わる間だけ親と共に生活するのである。

しかしながら，人間には永遠に続く家族生活というものがある。そしてたとえ人間が生まれながらにして動物よりもすぐれているとしても，人間の子供は何年にもわたって親の保護をうけるのである。なぜこのように長い期間，親の保護を受けなければならないのか，その理由は明らかである。それは，人間は単に生存すること以上のことを学ぶ必要があるからである。

若者のいる家庭はある意味で「永遠に」とも言えるかもしれないが，いつでも出席できる最も立派な「大学」と言えよう。しかしながら，現在の世の中には，家庭で得られる教訓を大切にせず，自分の進歩に役立てようとしない若者があまりにも多い。この主な原因は，主が数々の責任を託しておられる両親に，若者たちが従おうとしないことにある。使徒パウロは，末日に関する話の中でこの問題を指摘しこのように記している。「その時，人々は自分を愛する者，金を愛する者，大言壮語する者，高慢な者，神をそしる者，親にさからう者，恩を知らぬ者，神聖を汚す者……となるであろう」（Ⅱテモテ３：２）

若い人々は各家庭にあって人生に関する多くの大切な教えを受けることができる。そのような教えの一つに従順ということがあげられる。すなわち正しい原則に従うことである。

子馬は絵のように美しく，その若々しさは目を楽しませ，遊ぶのにはいい相手かもしれないが，従順になるよう訓練されないうちは何の役にも立たない。若者についてもこれと同じことが言える。従順になることを学ばないうちは，彼らもまた行く先々で挫折し，失望することであろう。

パウロは，救い主も同じように従順について学ばれたことを次のように記している

「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学ぶ，そして，全き者とされたので彼に従順であるすべての人に対して，永遠の救の源となり……」（ヘブル５：８～９）

両親の忠告や願いを無視する若者は，どのようにしたら従順になれるかを学ぶ最も良い機会を自ら逃がしているのである。両親に従うことによりもたらされる祝福は一時的なものではない。それは永遠のものである。古代アメリカの予言者ニーファイが，なぜあのように偉大な指導者となり力強い神の僕となったかの理由の一つに，彼が心から父親に従うことを学んだことがあげられる。このことはニーファイの父リーハイの次の言葉にはっきりと認められる。

「『それで，主は汝と汝の兄弟たちはレーバンの家へ行ってその歴史をくれるようにたのみ，それを荒野の中のここまで持ってくるように私に命じたもうた。ところがごらん，汝の兄弟たちは私のたのみがむつかしいことだと言って不平を鳴らすが，これは私が汝の兄弟たちにしてくれと言ったのではなくて，まことに主の命令である。だからわが子よ，汝はエルサレムへ行け。そうすれば汝は不平を言わなかったから主に恵まれて助けを受けるであろう』。そこで私ニーファイは，私の父に『私は主が命じたもうことを行って行う。私は主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである』と言った」。（Ⅰニーファイ３：４～７）

若者が家庭で得ることのできる教訓として他に，感謝するということがあげられる。現在我々の住む社会は，若者の要求を満たし，場合によっては若者が崇拝される社会である。けれども彼らの両親に対する責任は，昔と少しも変わってい

ない。主は言われたのである。「あなたの父と母を敬え。…」（出エジプト20：12）

恩知らずの子供ほど親の心を悲しませるものはない。若い男性，女性の考えや行動に感謝の気持ちが見られない時，彼らが大人として成熟するまでにはほど遠いことがわかる。感謝できるということは真の紳士淑女であることのしるしである。

ベンジャミン・フランクリンは，感謝するということについて自分の考えを次のように述べている。

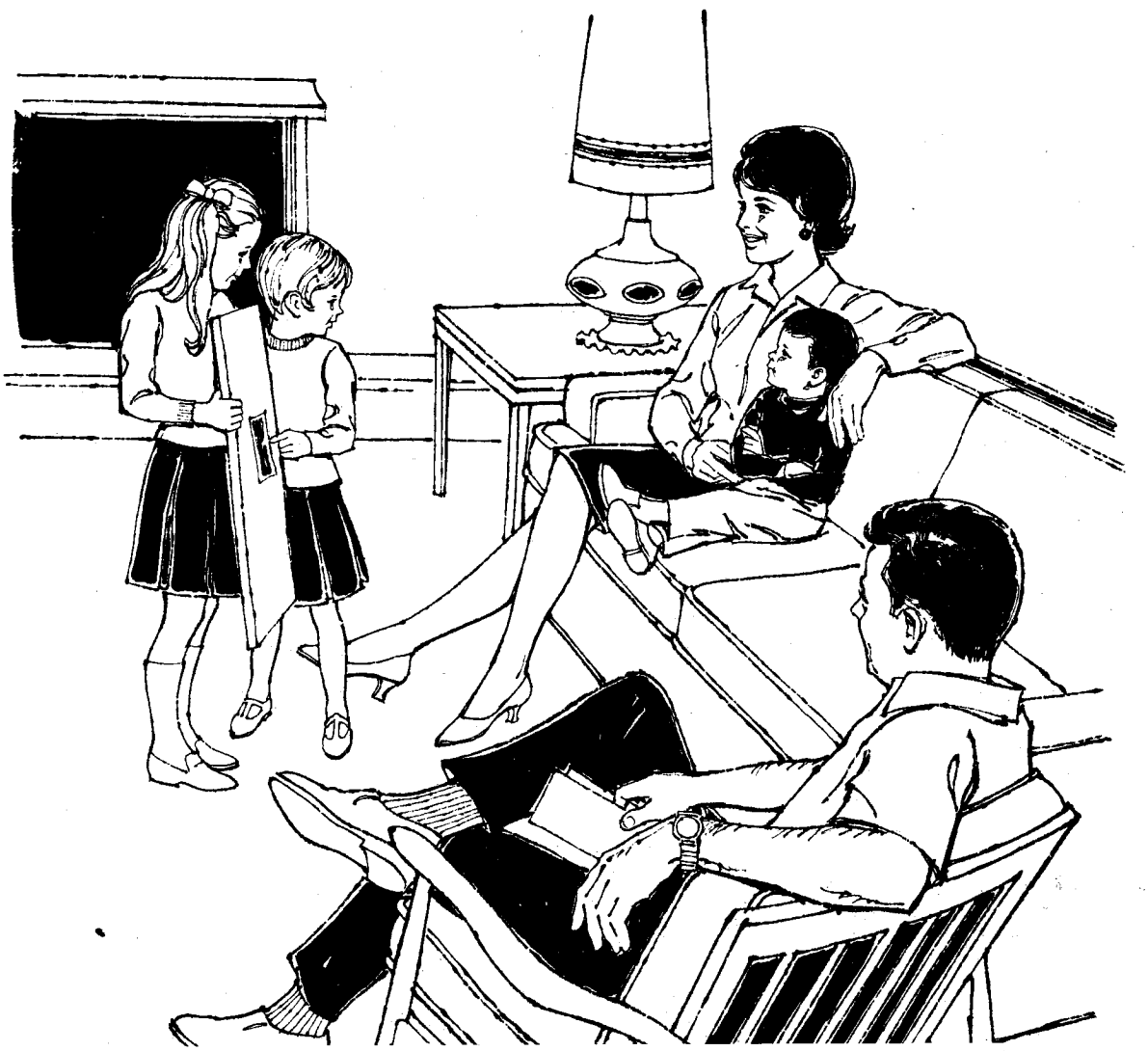
「私自身について言えば，他の人々に奉仕する時，自分は親切な行ないをしているのだとは考えずに，借金を返しているのだと考える。私は旅の途中も住み着いてからも，人々から多くの親切を受け，神より数え切れない恵みをいただいた。人々から受けたこれら多くの親切に対しては人々に恩返しをし，神より受けた恵みに対しては，いつでも人々の助けができるよう自分をととのえることによって感謝の気持ちを現わすこと以外に方法はない。なぜなら，たとえ毎週感謝の言葉や賞讃の言葉をくり返し言ったとしても，造り主に負っている恩義はもちろんのこと私たちが互いに負っている恩義に報いることができるとは思えないからである」。（キリスト教信仰の宝庫 P.292「フランクリンの証」）

家庭はまた，真の労働と責任を引き受けることの価値を学ぶ機会を提供してくれる。キリストは大工のヨセフの仕事場で働き，ダビデは父の羊の番をし世話をした。アブラハム・リンカーンは木を割り，ジョセフ・スミスは父親の農場で働いた。

家庭にあって責任や仕事を引き受ける機会はかつてほどはっきりしていないかもしれないが，それでもなお草刈り，庭の手入れ，ふとん敷き，皿洗い，床みがきなどがある。賢明な青年男女の皆さんはこれらの仕事が貴重な教訓を与えるものであって，決して卑しい仕事ではないことを悟るに違いない。

家庭は，若者に人生の数々のチャレンジに立ち向っていくために必要な教訓を得させる場である。いかによく多くの教訓を学びとったかということと，その人の将来がどんなに成功したものになるかそこに密接な関係がある。

動物の世界とは異って，今日の若者には単に生存すること以上のことを教え，人生の最も素晴しい教訓を与えてくれる両親がいる。しかし，これらの教訓を学びとる責任は，若者一人一人の肩に重くかかっているのである。



目標，理解，

「しつけをするべきでしようか」という質問には，「もちろんしつけは必要です」というはっきりした答えが返ってくることでしょう。しかしながら，何を，なぜ，どのようにしつけ，指導するかについてはあまり明確な答えが与えられていません。指導する目的を知らなければ，それは指導する人も受ける人も共に無駄な経験をしていることになるのです。

私は次のような話を思い出します。ボビーがアヒルのいる池のそばで遊んでいると，間もなく父親が家に入るように言いました。ボビーはどろんこになった足とぬれたズボンをみおろしながら，ゆっくり父親の方へ近づいていきました。それを見て，父親は厳しい声で言いました。「ボビー，泥あそびはやめろと言ったろう！いったい，なんど言われたらわかるんだ。さあ，行って棒を持ってきなさい。棒でぶたれなければおまえにはわからないらしいから。」しばらくしてボビーは戻ってきました。今度は手を後にかくしてゆっくり父親の前に出ました。父親は前と同じような厳しい調子で言いました。「待ってたぞ，さあ棒をよこしなさい。」ボビーは後にかくしていた両手を前の方に出して，棒ではなく小石をいくつかさし出しました。そして落ち着いた声で言いました。「棒が見つからなかったんだ。だけどここに石ころがあるからこれをぼくに投げたらいいよ。」

目標

子供を指導する責任のある大人として，私たちは子供の態度や，悪い行ないを改め制御する方法，あるいはそのような行ないへと誘いこむものに気をつけています。

指導することは，大人と子供の心の戦いと言えるでしょう。そしてどんな戦いでもそうであるように，誰かが勝利を得なければなりません。子供たちの好奇心，無邪気さ，自尊心をふみにじって大人が勝利者となるべきでしょうか。それとも無理を通し，大人の言うことを聞かずに荒々しく振舞って，子供が勝利を得るべきでしょうか。力づくの争いには，どんな関係にもひびがはいるという危険が伴いますから避けるべきです。

指導の目標とは，まず子供に私たちが期待しているものを知らせ，それから彼らが自己修養し，自制するのに役立つ経験を得させることなのです。

理解

子供がなぜそうするのか，またどんな場合に変わるのかを考えたことがあるでしょうか。子供のすることには，それなりの理由があるものです。時々大人は子供のそうした行ないの裏に何があるのかじっくり考えたり，理解しようとつとめることをしません。子供が泣けば，泣く理由は少しもないのだと勝手に考えて，親がこう言うのを何度耳にしたことでしょう。「さあもう泣くのはおよしなさい。欲しいものは買ってあげるから……」

大人には納得のいかないような行為も，ある時期の子供にとってはごくあたりまえのこととして通るのです。かんしゃくは，幼児が欲求不満に対して示す正常な反応です。問題に取り組んだり，一つの物や材料をもとにして新しい可能性を見出すこと，これらは子供の内面から自然に湧きあがってくるものです。

「どうしてうちの子は教会で静かにできないんでしよう」，「行儀よくしていて欲しいと思う時にかぎってふざけるんですよ」などとほとんどの親は同じような心配ごとを持っています。新しい環境や適応しにくい環境にはいると，子供たちはどうしても大人を困らさせるような態度をとってしまうものです。

家庭で一番大変な時間は夕食時です。母親は夕食の準備に大わらわで，小さな子供たちは疲れきってお腹をすかせ，父親や上の子供たちは一日の出来事を聞いてもらおうと一生懸命なのです。そのような状態では，神経も高ぶります。子供たちは，自分が何を期待されているかを知らないために，思いのままを行動に移すことがおうおうにしてあるのです。

方法

行ないを評価したり，それに反応を示すことも指導のうちに含まれます。私たちはそれぞれ違った人々を相手にしていますから，指導の仕方も当然違ってきます。行ない全体に関する基本的な指導方法をいくつかあげてみましょう。

第一に，罰を与えても子供たちはあなたの望むような模範的な態度をとるようにはなりません。罰を与えることによってその行ないをやめさせ，やってはいけないことを悟らせることはできるかもしれませんが，どのように振舞うべきかについては何も教えてくれません。

幼児の世界における交わりは原始的なものです。たとえば自分のほしいも

方法

ジーン　ラーセン
ブリガム・ヤング大学講師
「児童の成長と家族関係」担当

のを他の子供が持っていると，かみついたり，突いたり，引っぱったり，ひいてはたたいたりしてそれを自分のものにしようとします。このような態度を見て世の多くの親たちは非常に神経質になっているのです。かみつくことはいけないと教えるのに，あなたがその子供にかみつけばいいと言う人もあるでしょう。しかしそのように子供にかみつき返して，それであなたの望むところを子供にわかってもらえるでしょうか。

第二に，子供の好奇心をふみにじることは賢明ではないということです。それはちょうど子供の成長を止めようとするようなものです。子供の抱く疑問を心にとめ，解明するよう努力して下さい。旺盛な好奇心による行ないは黙認し大目にみてやることも必要ですが，しかしそのような好奇心からでた行動をやめさせる場合は，黙認できないものかどうかもう一度よく考える必要があります。

水遊びは，小さな子供ならだれもがするとても楽しい遊びです。水遊びや，それに似たような遊びは大目に見てやる必要があるのではないでしょうか。母親はこのように答えることができるでしょう。「いいえ，台所での水遊びは許しません。でも外でならやってもかまわないわ。」

第三に，物事を子供の立場に立ってながめるようにすることです。子供にできないことを無理にやらせるよりも，彼らが少しでもやりやすくなるよう，あなたにできることを考えて下さい。その子供だけにのべる心からの賞讃の言葉は，その子供の行ないを変えることができます。大人の中にはほめ言葉など子供には不要だと考える人もいるでしょう。しかしほめられるだけの理由があるならば，当然そうすべきです。

保育園の児童で，いろいろなことをとてもよく知っている五歳になる子供がいました。先生はこの子供にむかってよくこう言いました。「ジョン，あなたは本当に利口ね！」ある日のことその子供の母親がやってきて先生に言いました。「先生はどうしていつもうちの子供に利口だ，利口だとおっしゃるんですか。あの子がだんだん高慢になっていくとは思いませんか。」この言葉に対して先生は，他の人々の言葉や行ないによって子供たちの態度が大きく影響されるものだと答えました。それから何日かたったある日，ジョンは保育園の流しがつまっているのを修理工が不きげんそうに直しているのをじっと見ていました。修理工が流しのせんをはずし，そこに砂がいっぱいつまっているのを見た時，彼の怒りは今にも爆発しそうでした。この様子を見ていてジョンは，怒った修理工の顔を見上げて言いました。「うわあー，おじさん流しを直せるなんて利口だね。」すると修理工の怒った顔はしだいにやさしい笑顔にかわって言いました。「ああ，その方面では自分でも利口だと思っているよ。」

第四に，子供の心に愛，温情，親切心，自重心を養い育てることです。子供は実際に自分で経験して学ぶのです。人々からそのような気持ちを受けたことのある子供は必ずそのような気持ちを人々に示すことができるものです。

最後は，子供たちに私たちの期待していることを知らせることです。子供には，してはいけないことよりもすべきことを教えて下さい。子供が道理をわきまえ，結果を見，自分の責任を悟ることができるよう助けて下さい。しかしその方法がおどかしや，恐怖を抱かせるようなものであってはなりません。子供がこわがって自分を押えるのではなく，よく理解し納得して自分を制御できるような経験を得させて下さい。次に一つの例をみてみましょう。

メアリーは紙を切って画板にはり絵をしていました。そのはり絵がほとんどできあがった時，メアリーは自分のはさみがなんとよく切れるかに気づきました。そこでメアリーはそのはさみで何枚も紙を切りきざんで，その小さな紙片が床の方へひらひら飛んでいくのをじっと見ました。するとすぐにそれは雪のように見えてきて，床の上は本当のふぶきのようになったのです。先生がメアリーのところへやってきて言いました。「今晩管理人のボブさんがこの教室にお掃除に入ってきたら，いったい何があったかと思うでしょうね。」メアリーはちょっとの間考えてから答えました。「散らかしたものをきれいにしなくっちゃ。私が掃く間，ちり取りを持っていてくださいませんか，先生？」

あなた自身のやり方で指導して下さい。そして率先して話し合い，説明し，こうあって欲しいと思う態度をあなたが模範を示して下さい。こうして絶えず指導にあたるならば，たとえその方法が失敗であっても——そうわかるまでには時間がかかるでしょうが——必ず子供たちに自己の価値を認めさせ，自制心を植えつけるという目標を達成するに違いありません。

愛の奇蹟

ウィリス S. ピーターソン

あらゆるすぐれた原則，律法は人々の福祉と幸福を願う愛という形で表現されてきました。その最も偉大な愛は，聖書の中に見られます。「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。」

（ヨハネ３：16）

愛とは律法を完全に守ることです。イエスがこのように言われた時，人々は十戒や十戒をもとにして定められた他の数々の戒めに従って，天へ至る道を歩んでいました。しかしイエスは言われたのです。「私はあなたがたに容易な方法を示そう。もしあなたがたが二つのこと，すなわち神を愛し隣人を愛するならばすべての律法を完全に守ることになるのである」と。

（マタイ22：37〜40，ローマ13：8，ガラテヤ5：14，6：2参照）

愛，すなわち互いに愛し合うことによって私たちは文字通り奇蹟を行なうことができるのです。私たちに善をなすよう促してくれるものは，天父の私たちに対する愛と私たちの天父に対する愛なのです。

天上の大会議は，天父がすべての霊の子供たちを深く愛しておられたために開かれました。霊の子供たちは，それぞれの望みを言い愛のうちに選択をしたのです。また天父の愛によって地球が創造され，アダムとイヴは互いの愛をもってこの世に最初の家庭を作りました。

地上に生を受けた者として，私たちには愛し愛される天の父母があり，またこの世の父母，祖父母があります。

このような人々との交わりを通して，私たちが普通に正しい生活を送る時，幾度となく愛の奇蹟を経験するのです。

一組の男女が互いに愛し合って結婚し，家庭を作ります。そして妻が愛のうちに自分自身を夫に捧げる時，そこに誕生という奇蹟が起こります。こうして，生れた子供は皆に愛され大切にされます。

両親は，子供の人生を喜びに満ちた意義ある豊かなものとするために，計画し，犠牲を払い，自分の持てるすべてのものを子供に与えるのです。このように両親は，自分の子供を深く愛しているので，子供が悲しんだり不幸に合ったり傷つく心を痛め，あるいは子供の幸福そうな様子を見て喜び，素直な子供であることを誇りに思うのです。

このようなことがこの世の両親と子供たちの間に見られるように，私たちと天の両親との間にも同じことが言えます。

そして，両親と子供たちの間にある愛は年とともに深まっていくのです。小さな娘は成長し，一人の女性として目覚め，立派な男性と恋愛して結婚の準備をするようになりま

す。そして結婚式の朝，父，母，子供たち家族全員が共にひざまづき祈りを捧げ，その祈りは天父への感謝と愛，またお互いへの愛の言葉で満たされるのです。彼らは心の中に感じる「何か」を言葉に現わすことはできなくとも，その「何か」が彼らに語りかけて，自分たちが偉大な愛を分かち合っていることを悟るのです。

時がたち，その新しい家庭にも男の子の誕生という祝福がもたらされ，その子供は両親だけでなく祖父母にも愛されるのです。

ここにまた同じような形の，しかも新しい愛が生まれます。そんなにも愛らしい，汚れない小さな男の子……それは天の恵み以外の何ものでもありません。その男の子は天父の愛によってこの世に送られてきたのです。両親は自分の子供としてその子を心から愛し，また両親の父親，母親はその男の子の祖父母としての新しい生活に入るのです。そして彼らは自分たちの孫をこのうえなく深く愛していることに気づき，こう自問するのです。「私たちは自分たちの子供をもこんなに深く愛してきたのだろうか。」そうです，彼らは確かに同じような深い愛をもって子供たちを育ててきたのです。そして彼らは新しい孫をむかえて限りない愛を見出し，それが自分たちの子供への愛と少しも違わないことを知るのです。

彼らは今，自分たちの愛が決して弱まることなくあるいは消え失せることなく他の人々におよび，大きくなっていくことを知りつつあるのです。

天父の持ちたもう愛とはそのような愛なのです。それゆえ，天父には，一人一人に関心を寄せ，気づかい，やさしさを示しながら子供である私たちを深く愛することが可能なのです。五千人に食物を与えたもうた奇蹟の中にこの神の愛と同じものを見ることができます。イエスは五つのパンと二匹の魚を手に取って祝福し，それを群衆に与えられました。すると，「みんなの者は食べて満腹し……パンくずの残りを集めると，十二のかごにいっぱいになった」のです。

（マタイ14：15〜21参照）

愛についても同じことが言えます。私たちが愛を与えれば与えるほど，一層多くの愛を受けるのです。そして愛する人々，仲間の人々との永遠に続く価値ある関係をつくり出す力が増し加えられるのです。

イエスがパンと魚で奇蹟を示されたように，人は誰でも愛の奇蹟を行なうことができるのです。

勉学心の涵養

リン　スタダード

教師としての自分の存在理由を考えもせずに教室に入る日曜学校教師には，良いレッスンができるはずはない。どの教師も，自分はなぜ教師に召されたのか，何をしなくてはならないか，どうしたらそれが良くできるかを必ず知らなくてはならない。

日曜学校教師が，自分の目的は話をして子供たちを静かにさせることだと考えた場合，彼は前もって，日曜学校手引きに述べられている日曜学校の目的の項を読み，自分の考えがそれに沿っているかどうかを調べる必要がある。

福音を教える主な責任は家庭にある。日曜学校はこの家庭の責任を助けることである。

日曜学校の目的は，日曜学校に出席する教会の会員や訪問者にイエス・キリストの福音を教えることである。

日曜学校で教わった結果，「天父なる神」と「御子イエスキリスト」と「聖霊」を信ずる最も大切な信仰が強くなり，イエス・キリストの神権と福音の原則とが予言者ジョセフ・スミスとそれに続く生ける予言者によって回復されたという証が更に大きくなるものでなければならない[1]。

たずね，求め，叩きなさい

教えた結果，生徒の持っている神会に対しての信仰が強まり，福音に対する証が大きくなるようでなければならないとしたら，教師は話をして子供たちを静かにさせるだけではいけない。

人々はどのようにして信仰と証を強めるのであろうか。一番確かな方法は自分で求め，自分で努力することである。断食し，祈り，学び，考え，教えられた福音の原則を実践することである。

教師の目的のおもなものは　(1)生徒が自分で努力するように影響を与える　(2)生徒が福音についていだいている疑問を正しく解決できるように助けることである。

救い主は，自分でさがし求めなくてはならないことを我々に教えられた。

求めよ，そうすれば，与えられるであろう。捜せ，そうすれば，見いだすであろう。門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう。　（マタイ７：７）

「求めよ」，「捜せ」，「門をたたけ」という言葉は，自分で積極的に行なう，前向きに努力していくという意味を持っている。

福音の原則を学ぶには，ただ福音のレッスンを受けるだけであってはならない。積極的に，熱意をもってレッスンにのぞみ，多くの努力を払って捜さなければならないのである。

教師は，生徒の努力を換起し，彼らが持っている質問の答えをみつけられるように，各レッスンにはっきりした目的を決めなくてはならない。そのため，必ずしもいつも生徒の質問に答えることが良いとは言えない。生徒自身に答えを捜させるほうが良い場合もよくあるものである。もし子供が外からすぐに答えを与えられるならば，その子は自分で考えないうちに満足してしまうかもしれない。

たとえば，教師が子供たちに聖典を読むことを教えたい場合には，断食と祈りをもって，聖典には子供たちが現在持っている疑問や問題の答えがあるということを彼ら自身で知るように助けてあげねばならない。

授業中に出た質問に答えず，子供に自分で答えを捜させる

ことは良い方法である。
教える目的——おもに大切な二つのこと。

教師は，日曜日のレッスンの準備を，前に述べた二つの目的に沿って行なうことが大切である。

(1) 生徒が自分で努力するように影響を与える。
(2) 生徒が福音についていだいている疑問を正しく解決できるように導く。

この目的は次のように言いかえることができる。

(1) 生徒の心を刺激して，知りたいと思わせる。
(2) 生徒が自分で，資料や知識を集めることを助ける。

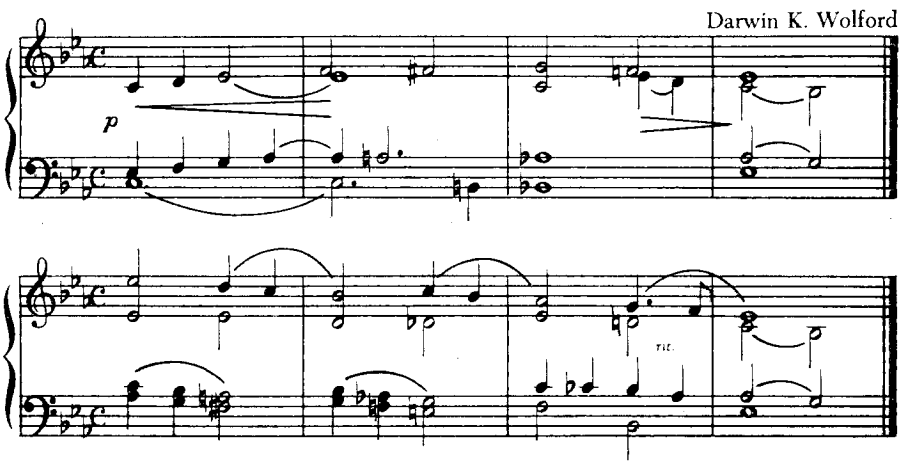
我々教師にとっては，生徒が学び方を知るよう手伝うことが大切である。すなわち，彼らが福音についての疑問の答えを自分で捜し，集められた知識を，精神的，霊的な「コンピューター」にかけて自分で解決できるように助けることである。

このような目的を持つ教師は，自分の仕事は知識を提供することだと考えてはならない。教師の仕事の第一は，生徒に勉学心をおこさせ，その心を育てることである。そののちに生徒は自分で方向を定め，自分で実行に移し，人生における真理の探求者となるのである。教師が自分のおもな仕事は生徒自身を活動に向かわせることだと知れば，生徒の探求心を培い，積極的な生活をうながすレッスンができるであろう。

教師が「自分は勉強のアドバイザー」であると考えるならば，各レッスンの目的を，神の子供たちがそれぞれに自分にしか与えられていない賜，才能，信仰，証を伸ばすような方法で教えることができるに違いない。天父の子供たちは自由意志を与えられており，進歩することに関して自分に責任のあることは，永遠の計画である。そのことを知れば，教師は各生徒が勉学心をおこすための機会，そのための豊かな経験をする場をレッスンの中で用意するはずである。

「義に飢えかわいている[1]」人たちは，勉学心の炎がかすかにともっている人々よりも，はるかにはやく日曜学校の目的を達成できるであろう。勉学心を呼びさますことは，教師の責任中最大のチャレンジである。

聖餐の聖句伴奏曲



2月　聖餐の聖句

大人日曜学校

「まず神の国と神の義とを求めなさい」

（マタイ 6：33）

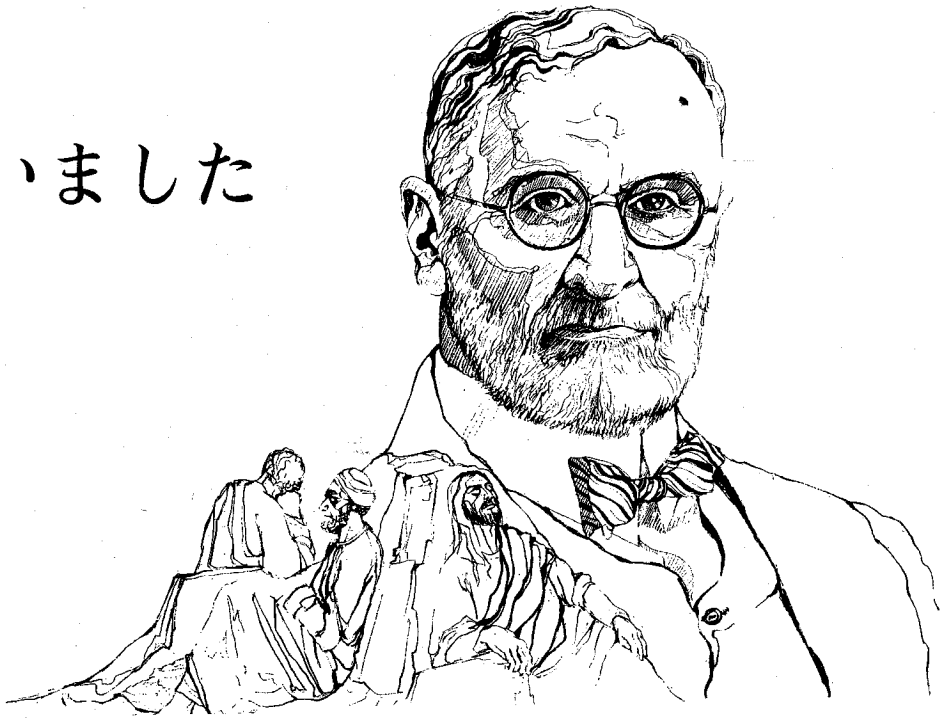
子供日曜学校

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」

（マタイ22：39）

私は眠っていました

編集員
アルバート L. ゾベル Jr.



末日聖徒の詩才ある歴史家オーソン F. ホイットニー（1855—1931）は，1906年4月9日，ジョージ F. リチャーズ，デビド O. マッケイ等と共に，使徒となった。

多くの示唆を与える良い話で人々の間に人気の高いホイットニー長老であったが，彼は1925年MIA6月大会で，21才の時にペンシルバニアで伝道を行なったことと，新聞に自作の詩歌や文章が掲載されたことを回顧して語った。

オーソン・ホイットニーの同僚で彼より25才年長の A. M. マッサー長老は，「教会の書物を勉強していなくてはいけない。あなたは新聞に投稿するためではなく，福音を宣べ伝えるためにつかわされたのです」とホイットニー長老をしかった。

若いホイットニー長老は同僚の言うことが正しいと知っていたが，ペンを持つ楽しみにひかれて詩作をやめられずにいた。1925年6月7日，安息日の夜のMIAの部で彼はこう述べた。

「ある夜私は夢を見ました。——それを夢と呼ぶのなら……。私はゲッセマネの園にいて，救い主の苦しまれる姿を見ました。私は，今こうしてみなさまを見るようにごく普通の気持で救い主を見ていました。手前の木の陰に立つ私は，むこうからは見えないのでした。救い主はペテロ，ヤコブ，ヨハネを連れ，私の右手の小さな門をくぐって来られて，彼らにひざまづいて祈るように命じた後に，ご自身は園の反対側へ行き，ひざまづいて祈られました。祈りは私たちのよく知っているあの祈りでした。『わが父よ，もしできることでしたらどうか，この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし，わたしの思いのままにではなく，みこころのままになさって下さい』（マタイ26：36—44，マルコ14：32—41，ルカ22：42）

救い主は祈りながら涙を流し，私の方を向かれました。それを見た私は深く心を動かされて，救い主の悲しみに真心からの同情を感じ，自分も涙を流しました。私の全魂は救い主のことを思い，全身全霊をもって救い主を愛し，他に何もいらない，ただ救い主と共にいたいと願いました。

ほどなく，救い主は立ち上って使徒たちがひざまづいている所へ行かれましたが，彼らはぐっすり眠っていました。救い主は使徒たちを静かにゆり起こして，少しの怒りも叱責の様子もなく，やさしい調子で，わたしといっしょに一時間のあいだ起きていられなかったのかと尋ねられました。救い主が世の罪を肩に負い，あらゆる人の苦しみをその心に受けている時に，三人はただの一時間もいっしょに起きていることができなかったのです。

救い主がもとの場所に戻り，もう一度祈ってから再び帰ってみると，三人はまた眠っていました。それを見た救い主は彼らを起こし，さとして，またもとの場所に帰り，祈られました。そのようなことが三度続くあいだに，私は救い主の顔，形，動作まですっかり覚えてしまっていました。救い主は堂々たる背丈で物腰に威厳があり，一部の画家が描くような弱々しさはみじんもないお方でした。幼児のような謙遜さがありながら，人々の中にあってまさに神の人でした。

すると突然，状景はそのままでありながらあたりが変ったように思えました。それは，前と違って救い主が十字架につけられた後のことでした。あの三人の使徒と救い主がいっしょに私の左手に立っておられました。今にも救い主が天に昇って行かれようという時でしたが，私は矢も楯もたまらず木の陰から飛び出して，救い主の足もとにすがりつき，自分をいっしょに連れて行って下さいと頼みました。

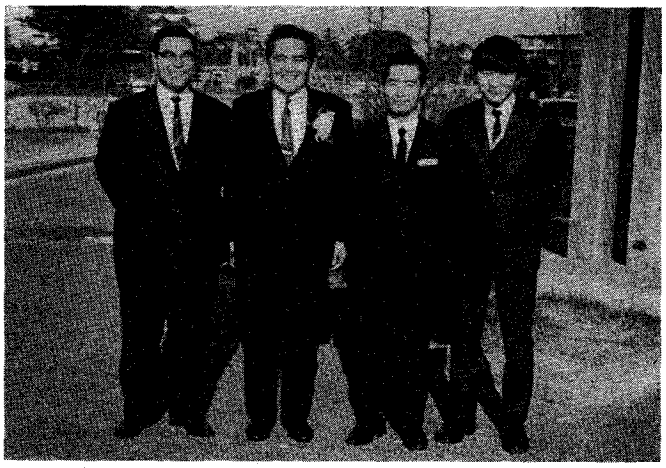
救い主はかがみこんで私を起こし，抱いて下さいましたが，そのやさしく愛に満ちた様子は決して忘れることができません。それははっきりとしてまるで現実のようでした。私は救い主のふところの暖かさをよく感じることができて，心は平安でした。救い主は言われました。『息子よ，彼らの仕事はまだ終っていない。彼らはわたしと共に行くが，あなたは残ってあなたの仕事をなし遂げよ』と。しかし私はまだ救い主のそばを離れずにいました。私はそのみ顔をみあげて，——救い主は私より背が高いのでした——『では，私が最後の時にあなたのみそばへ行けると約束して下さい』熱心に懇願しました。救い主はやさしくほほえんで答えられました。『それは，すべてあなた自身にかかっている』。私がすすり泣きで目が覚めると，朝になっていました」。

マッサー長老はその話を聞いた時に，「それは神から出たものだ」と言いました。ホイットニー長老は「私もそう思う」と答えましたが，彼はMIAの大会でこう語りました。

「私はその時，大切な教訓を得ました。私は自分が使徒になるなどと考えたことがありませんでしたし，自分が教会の役職を受けるというようなことも考えてみたことがありませんでした。しかし，あの三人の使徒たちが眠っていたことから，大切なことを学んだのです。私は自分の責任にあって眠っていました。神より召されていながらなすべきことを行なわずに眠っている人は他にもいることでしょう。

その時からすべては変りました。私は違った人になりました。しかし著作はやめませんでした，というのは，私が書いた作品を見たブリガム・ヤング大管長が，「著作の賜」を伸ばすように，そして，将来「地上に真理と義を打ち建てるために」その賜を用いるようにと助言の手紙を下さったからです。それが私にとって彼からの最後の言葉となりました。ブリガム・ヤング大管長は，私がオハイオ州で伝道しているその年のうちに亡くなりました。私は書くことをやめませんでしたが，しかし，それは教会と神の王国のためでした。それが第一のことで，他のことはすべて第二のことになったのでした」。

<伝道部長会メッセージ>



今、日本に何が起りつつあるのか？

日本沖縄伝道部　岡崎，鈴木，中村

〝冬来りなば春遠からじ〟……日本のモルモンにとって，まさに春の夜明けが見えて来た様である。1901年，ヒーバーJ．グラントにより日本に伝道部が開設されて69年間，長い長い厳しい冬の連続であった。今や，まさに冬の眠りから目覚めて，大きく進歩躍動しようとする兆候が明確に現われて来た。今，日本に何が起りつつあるのか？……

大阪の北，千里の丘，……2年前まではそこは草と藪と沼地であった。今や完全に整地され，史上最大の万博会場となっている。近代科学の粋を競った無数の出展館の中，……その最も素晴らしい位置にモルモン館がそびえ立っている。塔の先端で，やがて天使モロナイが高らかにラッパをひびかすであろう。美しく深いオレンジ色の絨毯が会場いっぱいに敷きつめられ，ひっそり静まり返っているモルモン館の中，その唯中に立って，そっと見上げると，そこにはフランスより送られて来た大理石の巨大なキリストの像が両手を大きく広げて来るべき献堂式を待っておられる。その顔にはハッキリと〝すべて重荷を負うて苦労しているものは私のもとに来なさい，あなたたちを休ませてあげよう〟（マタイ11：28）と我々に呼びかけていることがうかがえる。

今や主はこの日本の地にすばらしきまなざしをそそがれていることに気がつく……

この万博を控えて1月9日～10日にかけて米国より多数の宣教師が送られて来た。やがて50人のベテラン万博宣教師が選ばれて，池田，茨木，服部，高槻，堺，尼崎等の地に住居を定め，本番にそなえて準備する。1月11日には万国博の総責任者であり，モルモン館の部長であられるブロックバンク十二使徒補助がやってこられて万博事務局と最終的に詳細な打合せをされた。3月13日には数名の教会幹部が来日されて厳粛なモルモン館の献堂式が行われる。恐らくこれは日本のモルモン史上，最も重要な歴史的な一頁を飾るに違いない。先程述べたようにモルモン館は驚く程立派な所に場所を占めた。そのことはモルモン教会の会員はもちろんのこと，万博当局者ですら予期しなかった結果に違いない。何故ならそこには隠された主の知恵と御計画があったからだ。万博会場の最も大きな池のあるところ……すべての人々が憩いの場所として集まるお祭広場のすぐそばにある。そこには人間の生命と直結する大きな食堂と最大の公衆便所が控えている。人間である以上誰でも一日に一度は必ず訪ずれる場所である。又すぐそばには今回の万博のハイライト，日本館がそびえ立っている。モルモン館は又，現代の写真技術の粋，コダック館と美容界の大御所タカラ館との間にはさまれている。モルモン館の前には又，動く歩道の出入口がある。こんな結果を誰が予想することが出来たであろう？　「唯神とキリスト・イエスのみそのことを知るのである。……そして私たちは自問自答する……「今日本に何が起りつつあるのか？」……と，目まぐるしく躍進して行く主のプログラムを前に私たちは，唯々，感謝と驚きの目を見張るのみである。そして私たちには大きな使命がある。神が私たちに大きな期待をかけられていると感じる時，ふるい立たずにはいられないのである。日本の地に主の祝福が多かれと心より祈りながら教義と聖約の第一章第一節より予言の言葉を皆様に送りたい。

〝聴け汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みてすべての人々を見まもる者の声は告ぐ，曰く，誠にわれ告ぐ，汝ら民よ，遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ共に聴け。……誠に主の声は，すべての人々に及ぶものなれば，一人ものがるる者なし。……

＊去る２月１日（日）

日本沖縄伝道部内の各支部がこぞってペニーパレードに参加しました。

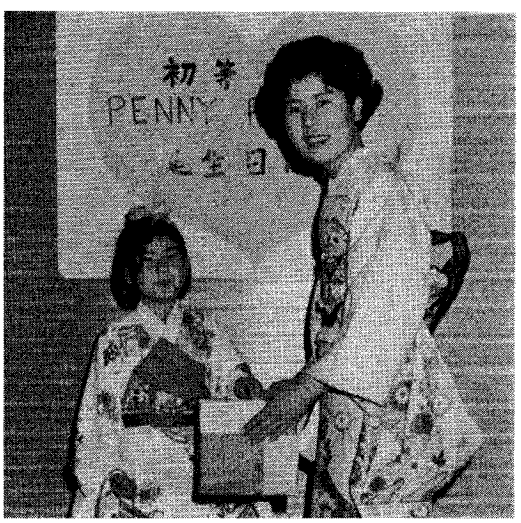
すべての善意ある会員達が，自分の年齢×５円をソートレイクのプライマリー．チルドレンズ．ホスピタル（初等協会病院）に献金して下さいましたので，多額の援助をバレンタイン・デー（愛の日）に病院の身体の不自由な人々に贈ることが出来ました。

＊去る１月12日，万国博に出展するモルモン・パビリオンの代表者である十二使徒補助のブロックバンク長老が大阪伊丹空港に到着されました。

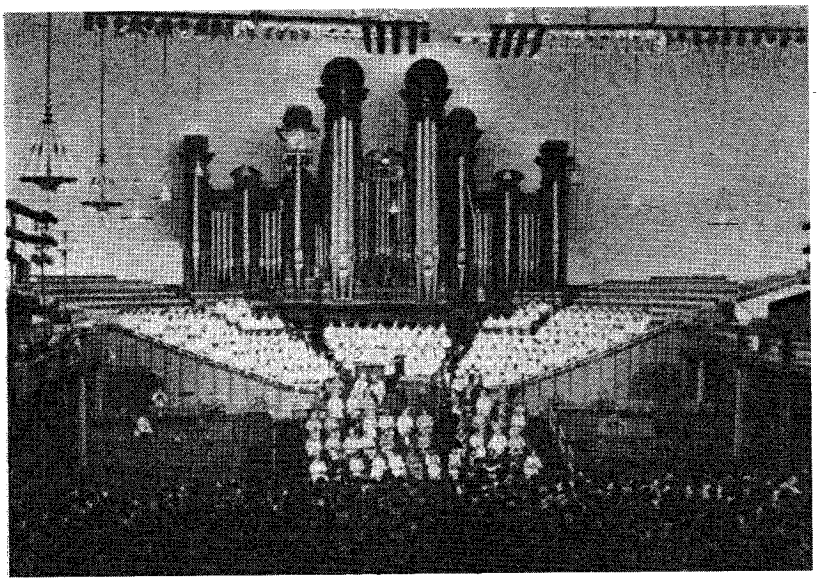
この偉大な世紀の万国博が日本で成功されますようにというヒンクレイ十二使徒のメッセージをたずさえて来られたブロックバンク長老の略歴は次の通りです。

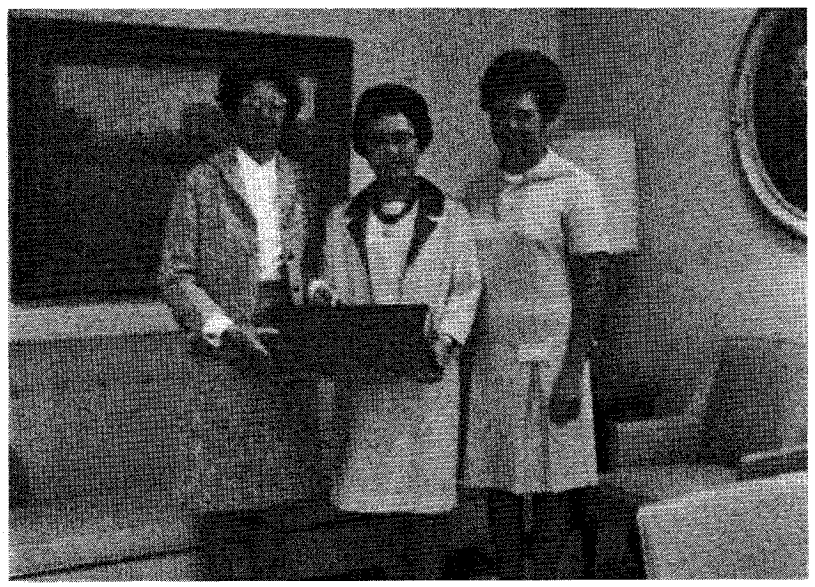
ソートレークに生れ，18歳の時イングランドへ伝道し，監督，副監督，高等評議員，ステーキ部長，伝道部長（北英国，スコットランド，アイランド，スコット）を３度果されて現在十二使徒補助（1962年10月より）である。ニューヨーク博，テキサス州へミス・フェア，モントリオール博，そして今回で４度目の代表をつとめられる。

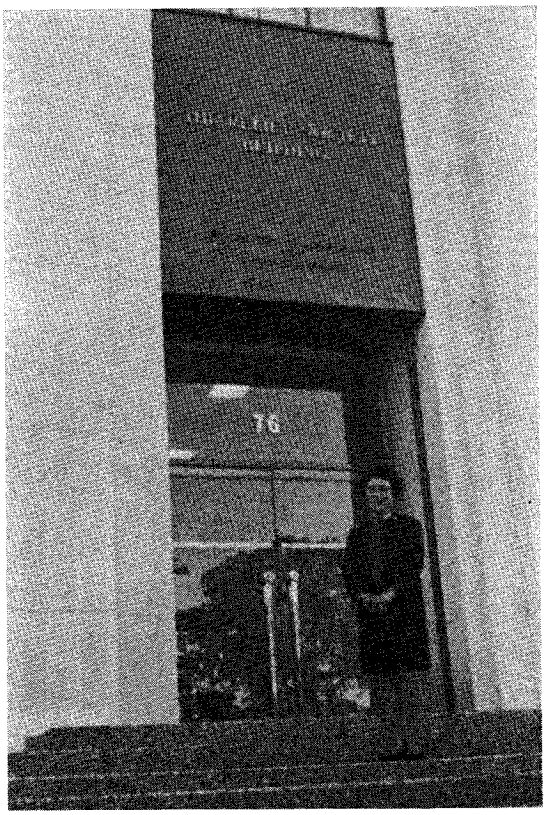
私達はブロックバンク十二使徒補助の来阪を尊い主の使いとして心より感謝し，日本に於ける彼のいっさいの責任が神の御心のままに完全になされますよう心よりお祈りしたいと思います。



＊去る1969年10月の扶助協会総大会に日本沖縄伝道部の扶助協会会長，柳田聡子姉妹は伝道部を代表して出席されました。



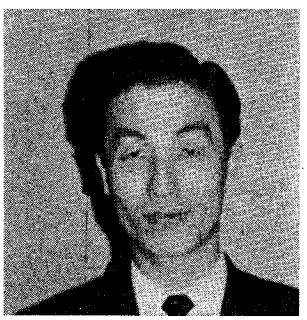




＜扶助協会ビル前にて柳田姉妹＞

＜写真左上＞シンギングマザーズと中央管理会役員の勢揃い

＜写真左下＞左よりジヤコブセン姉妹，柳田姉妹，シェイ姉妹

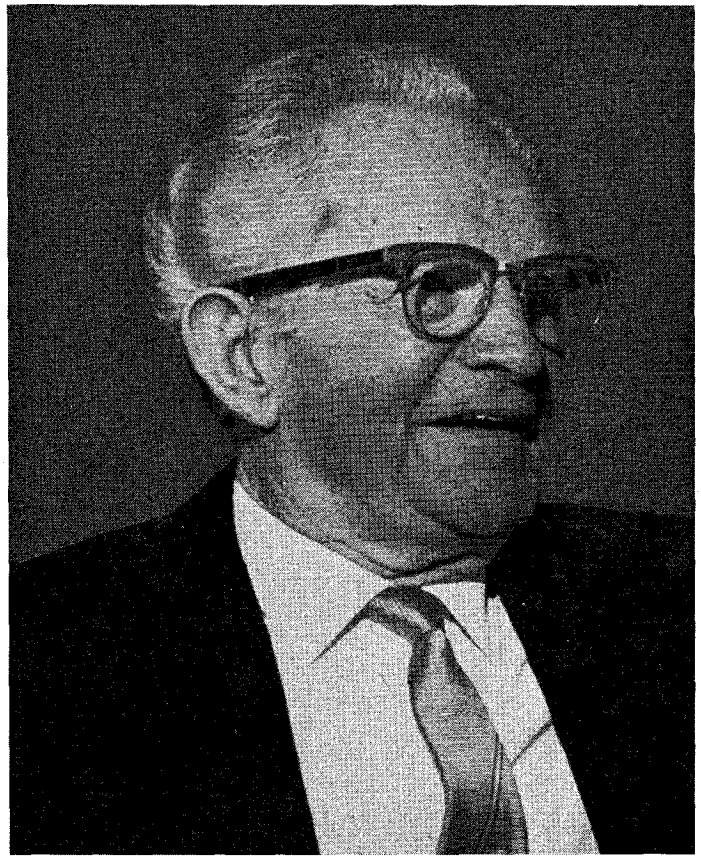


⇨マスター・Mメン賞を授賞された小松支部の中村利雄兄弟
＜12月14日＞

⇨岡町支部の杉村裕一兄弟と阿倍野支部の早瀬久美子姉妹が11月18日に結婚されました。

⇦ゴールデン・グリーナー賞を授賞された普天間支部の具志樫秀子姉妹
＜12月７日＞

⇦岡町支部の牧野正三兄弟と同支部の田村聡子姉妹が11月３日に結婚されました。



マッケイ大管長追悼会開かる

デビド　O. マッケイ大管長は，18日安息日の朝ホテルユタで逝去した。21日の夜，偉大な大管長をしのんで，多くの兄弟姉妹が東京西支部に集まり，追悼会を開いた。ビルス伝道部長は，かつてハワイで伝道中，当時のマッケイ副管長より面接を受けた思い出や，1920年来日し，青森で過したクリスマス，神の僕を召す様子，神殿での姿などについて語った。広がりゆく御業にたずさわる私たち一人一人は末日聖徒として受入れた信条，誓約にさらに忠実に生きようと，証にみちた会であった。

「マッケイ大管長のことば」

いかなる成功も家庭の失敗をつぐなうことはできない。

最大の成功と心の満足を得たいなら，イエス・キリストの福音を日々実践せよ。

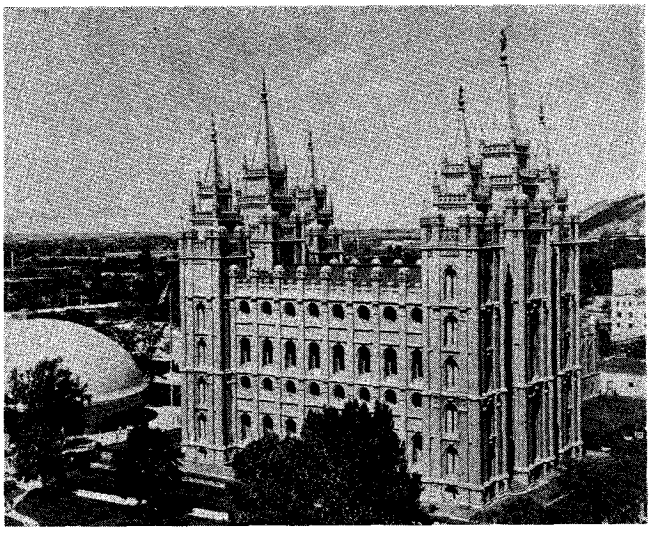
人は無私の原則にさらに献身する必要がある。人が己のためにのみ生きている限り，世に平和や自由は決して訪れるはずがない。

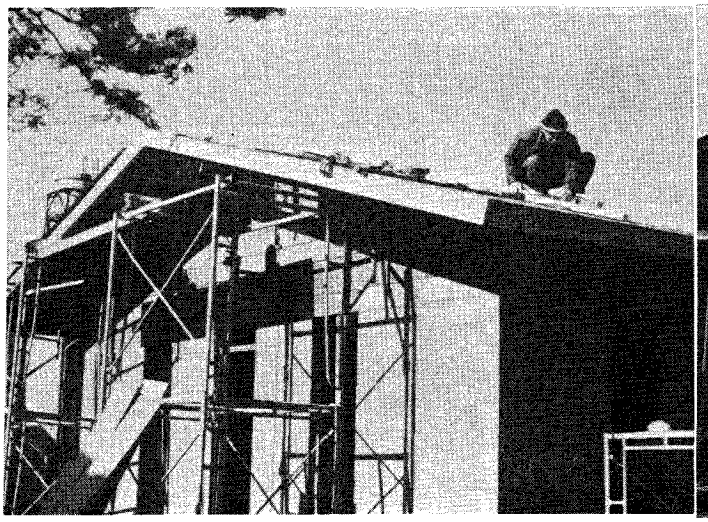
家庭を清い，価値あるものとしてゆく能力は，末日聖徒イエス・キリスト教会にある。

家庭はまことに社会の根本単位であり，人の親たることは神たることに次ぐものである。もしも天使が訪ずれたなら，喜んで逗留するほど私たちの家庭を心して整えようではないか。

選んだ職業がなんであろうとも，より優れた人となるよう，最善をつくせ。

「聖徒の道」予言者のことばより抜粋



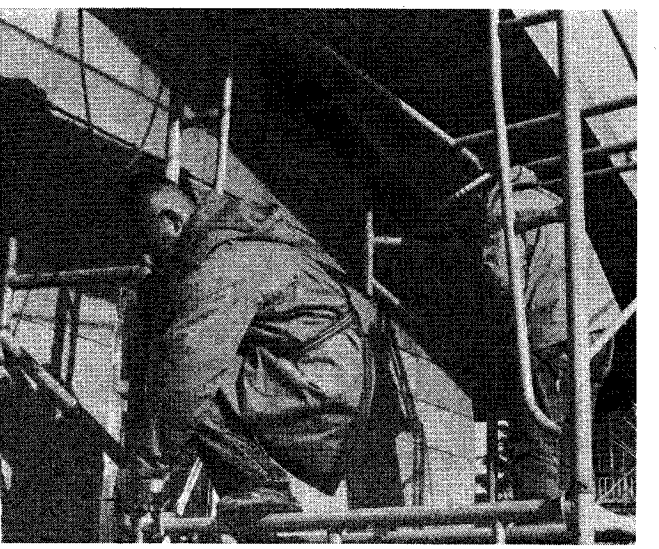


東北地方に
教会堂建築はじまる
仙台支部

1970年は日本にとって，大きな意味をもつすばらしい年になりそうです。

ジョセフスミスにより回復された真の福音は日本伝道部各地にひろまり，多くの民が主のめぐみを受けています。

山形，福島，新潟，青森，八戸，盛岡，郡山，秋田，長岡いわきを導く東北地方部の中心地仙台に，主の宮居である教会堂の建築がはじまりました。寒い東北の地で，熱心な建築宣教師達が心をつくし，思いをこめ，よろこびにみちて建築にはげんでおります。主の導きをうけた献身的兄弟姉妹の働きを通し，この東北の地に御業が確立せんことを祈ります。



公　告

宗教法人「末日聖徒イエス・キリスト教会は，昭和45年２月１日より，仙台市上杉４～１～５於て，教会堂の建築を（新築）を開始しますので，この旨公告いたします。

昭和45年１月10日

宗教法人「末日聖徒イエス・キリスト教会」
代表役員　ウオルター R. ビルス

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七〇年二月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十四巻第二号

口論と家庭の幸福

リチャード　L. エバンズ

幸福な生活に必須のことの一つに、一致したしあわせな家庭があげられる。そのような家庭は、人格と礼儀、ごく平凡な常識によって形成されるのである。人間関係の縮図とも言うべきこの家庭の中にあって、口論や誤解により平和と幸福が失われて良いものであろうか。ドロシー　ウォルワースはこう書いている。「ある種の口論は激しい雷雨のように大気を洗い清めます。しかしある口論は、みにくい傷跡としこりとを残し、ついには結婚を破綻させることさえあるのです。……シーザーがルビコン川を渡った時[1]、ひき返したとしても、元のようにすべてのものを手にすることはできませんでした。……あなたが口論の場で……憎しみをこめ、心を射す非情な言葉を口にするならば、……また、過去の失敗をことごとく数えあげ、美しい思い出を打ちこわすならば、……やりなおしはききません。あなたがた夫婦の関係は以前とは違ってしまうのです。……夫も妻も互いに、心身を使いはてた一日の終りに相手の言うことを、気にしすぎてはなりません。……わずらいや緊張感に心が疲れている時、不機嫌な時……あなたはやさしくありなさい。この時代に、私たちには、愛する人と争うことではなく、ずっと有益でエネルギーを消費するに足るものが、何かほかにあるはずです。……勝とうと思って口論してはいけません。夫や妻は敵ではなく、ささいな勝利を求めて争うような対象ではないのです。……口論は、必ずしずまるべきものです。口論を終らせて、……互いに何日も不機嫌なようであってはいけません。『ごめんなさい』と言う人もあるでしょう。その言葉が素直に言えるようでありなさい。意地はマイナスです。……いつも自分が正しいと言い張ってはいけません。最後に注意したいのは、口論は人前ではしないこと。人々の面前での争いこそ、最もあと味の悪いものです。それにはただ一つ、やめなさい、と言いなさい[2]」　結局は、人格と礼儀と常識の問題である。すみませんとあやまることを恐れてはならない。だれかが心からそう言う時、あなたは受け入れなさい。意地や高慢や頑固によって、家庭の平和と幸福をこわしてはならない。

1　シーザーはこの時、「さいは投げられた」と言った。（訳者注）

2　ドロシー　ウォルワース　「『ごめんなさい』をいやがらずに」グッド　ハウスキーピング社　1942年4月

聖徒の道
1970年2月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR. ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号　「トウキョウ」マツジツ